

6. 投資信託に関する認知・接触状況(全体)

(1) 投資信託の認知状況

投資信託については、「よく知っている」が13.4%、「言葉だけは知っている」が80.4%、「言葉も知らなかった」が6.2%であり、投資信託という「言葉だけは知っている」人が大多数を占めている。

前回調査と比べても、大きな変化はみられない。

対象者属性別については、性別では、女性に比べ男性の方が「よく知っている」が高い。

年代別では、「よく知っている」は20代では3.6%と低いが、年代が上がるにつれ高くなり、60代以上では25%近くにのぼる。「言葉も知らなかった」は20代で15.1%と、他の年齢層に比べ高い。

年収別では、「よく知っている」率は“800万円以上”で急激に高まり、1000万円以上の層では39.0%と4割弱にのぼる。

地域別では大きな差はみられない。

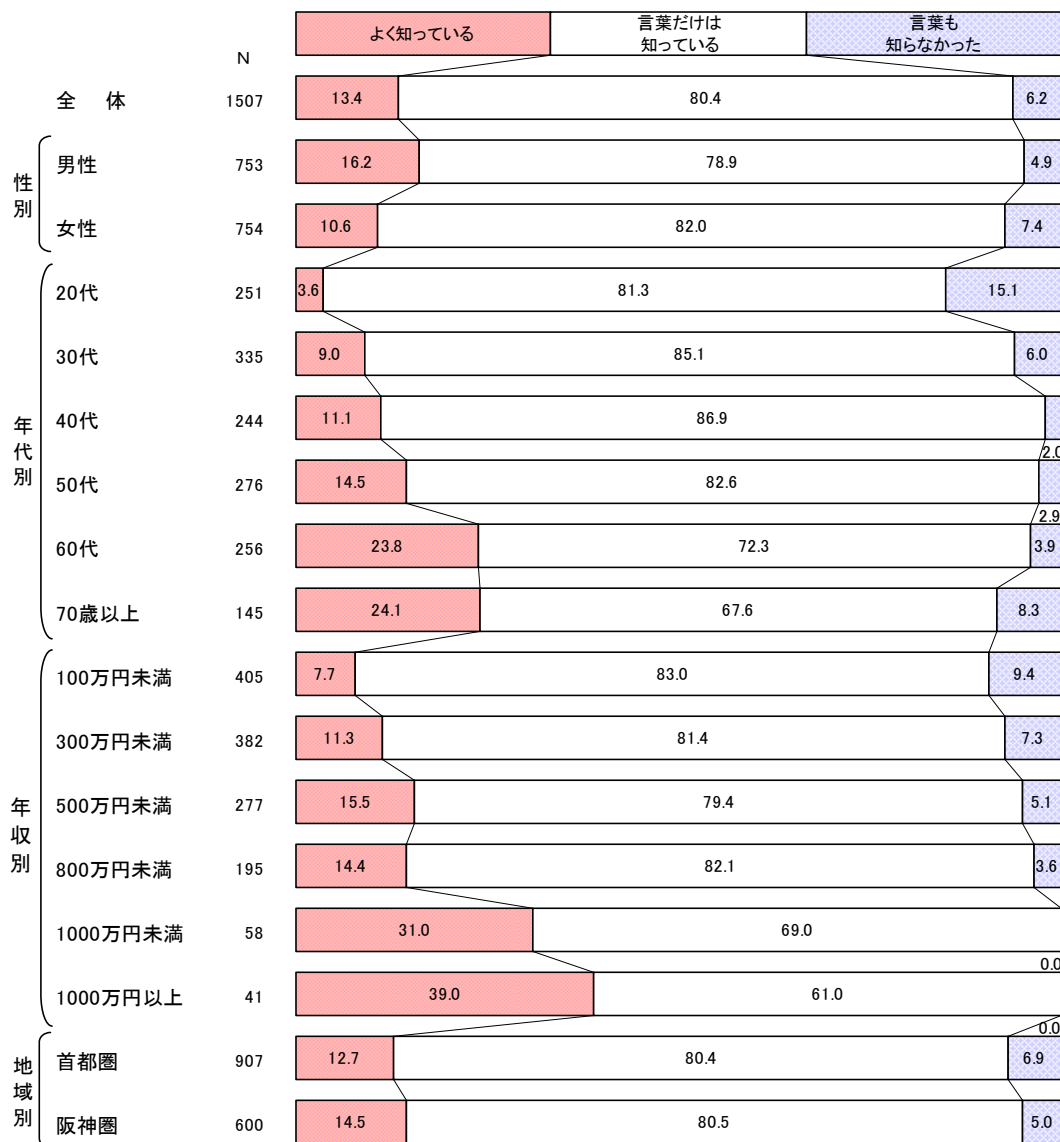
投資信託保有状況別については、「よく知っている」は現在保有層では70%近い(67.1%)が、保有経験層では45.3%、保有未経験・購入意向層では12.0%に下がり、非購入意向または非認知層では5%に満たない(4.1%)。

投資信託保有種類別では、「よく知っている」率は株式投資信託保有層では74.1%と高いが、その他投資信託保有層では54.8%にとどまっている。

【投資信託の認知状況(単数回答)／時系列】

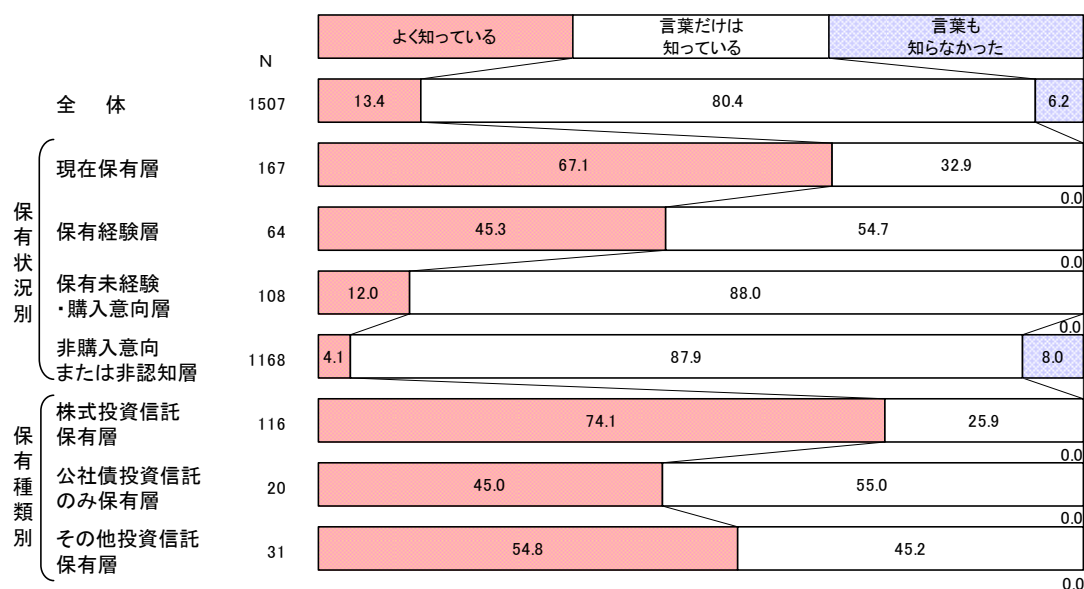
N		よく知っている	言葉だけは知っている	言葉も知らなかった
平成20年	1507	13.4	80.4	6.2
平成19年	1517	14.0	81.7	4.3

【投資信託の認知状況(単数回答)／対象者属性別】



【投資信託の認知状況(単数回答)／保有状況・保有種類別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



(2) 投資信託の商品内容認知状況

投資信託の特徴として知っているものを答えてもらったところ、「元本の保証はない」が45.9%で最も高い。以下、「銀行等の金融機関でも購入できる」(34.9%)と「国内の投資信託と海外の投資信託がある」(31.4%)が30%台で続き、「価格変動があり、外国投資は為替リスクがある」(28.3%)、「リスクとリターンは相互関係にある」(25.7%)、「MRF・MMF・中期国債ファンドは投資信託商品」(21.1%)は20%台が認知している。なお、「知っているものは特にない」も38.0%みられる。

前回調査と比べても、認知率に大きな変化がみられる項目はない。

対象者属性別については、性別では、「元本の保証はない」「価格変動があり、外国投資は為替リスクがある」「リスクとリターンは相互関係にある」「投資信託会社が運用している」など、男性の方が女性より認知率が高い項目が多い。

年代別では、多くの項目で40～60代を中心とした山型となっている。20代は「知っているものは特にない」が60%超を占め、全般的に認知率が低い。

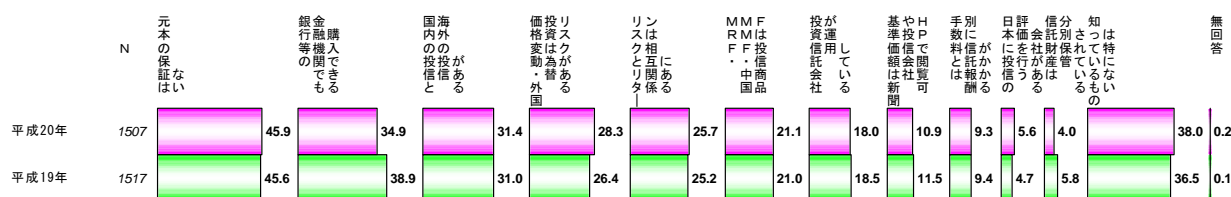
年収別でみると、いずれの商品内容とも年収が高くなるほど高まる傾向がみられ、1000万円以上の層では「知っているものは特にない」は14.6%に過ぎない。

地域別では「銀行等の金融機関でも購入できる」は阪神圏でやや高い。

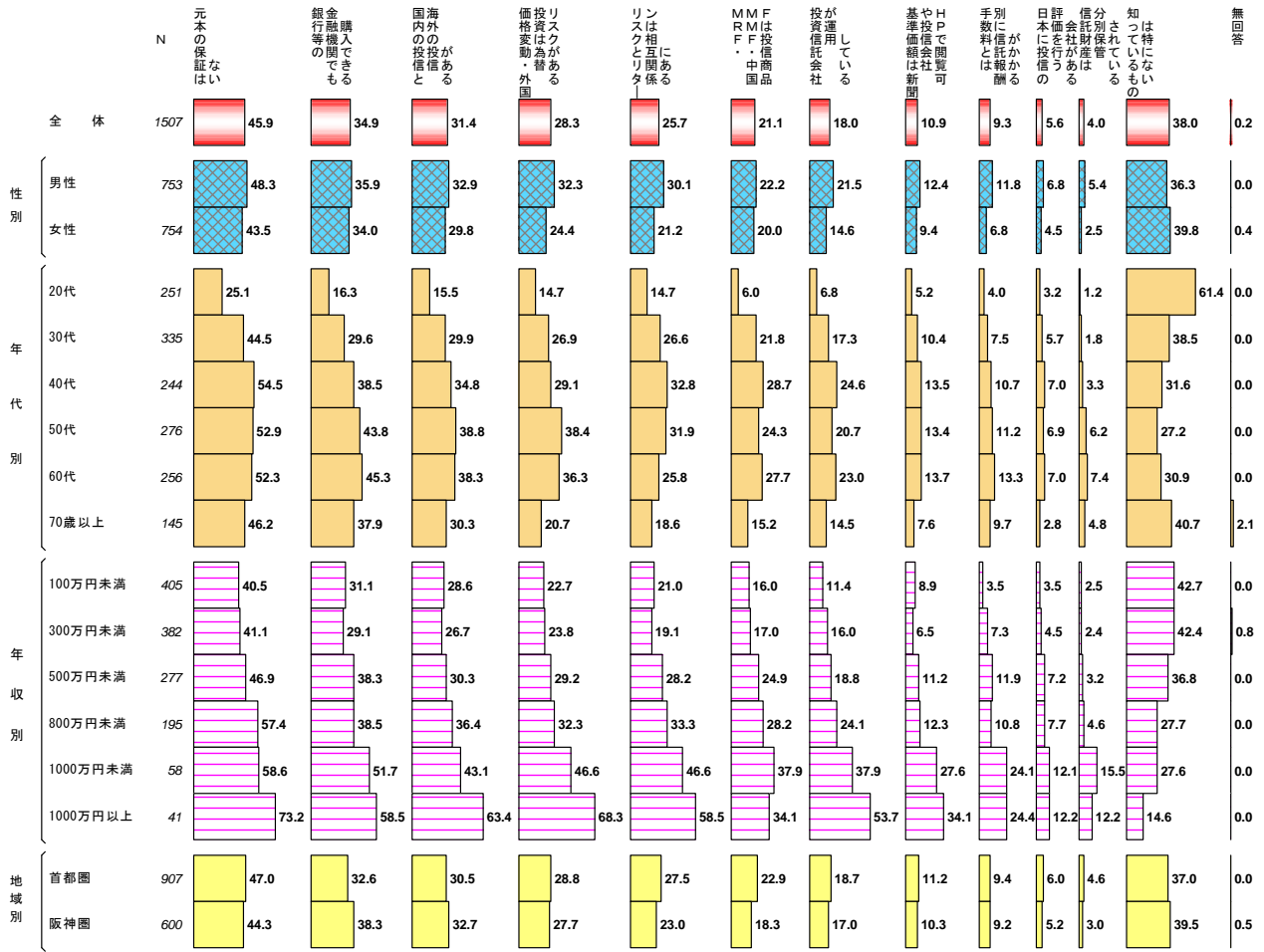
投資信託保有状況別にみると、いずれの項目でも現在保有層の認知率が最も高い。以下は、ほとんどの項目で保有経験層、保有未経験・購入意向層、非購入意向または非認知層の順となっている。「知っているものは特にない」は、非購入意向または非認知層で50%弱を占め高いが、それ以外の層では10%以下と低い。

投資信託保有種類別にみると、株式投資信託保有層は他の層に比べ「国内の投資信託と海外の投資信託がある」「投資信託会社が運用している」「基準価額は新聞や投資信託会社のHPで閲覧可」が高い。

【投資信託の商品内容認知状況(重複回答)／時系列】

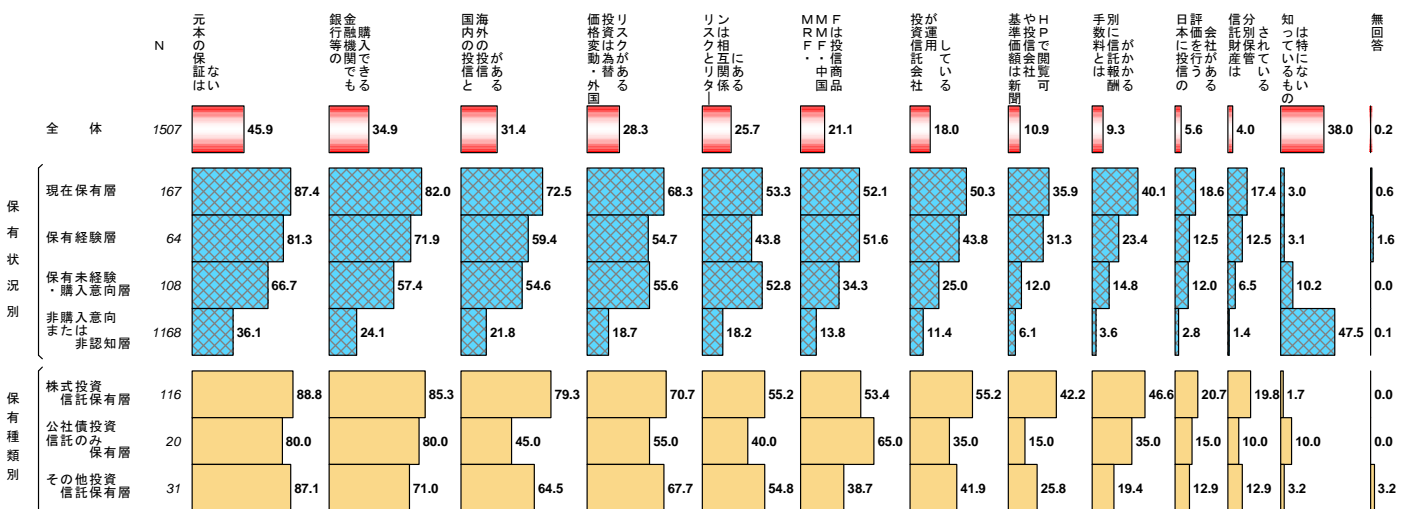


【投資信託の商品内容認知状況(重複回答)／対象者属性別】



【投資信託の商品内容認知状況(重複回答)／保有状況・保有種類別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



(3) 投資信託を調べるにあたり入手したい情報

投資信託を調べるにあたり入手したい情報としては、「基準価額」(19.9%)が最も高く、ほぼ同率で「分配金の額」(19.8%)が続く。以下、「販売手数料率・額」(13.7%)、「騰落率」(13.4%)、「決算頻度」(10.2%)、「信託報酬率・額」(10.0%)が10%台で続く。なお、「特にない・よくわからない」が68.7%と過半数を占めている。

対象者属性別については、性別では「基準価額」「分配金の額」「騰落率」などは男性の方が高く、「特にない・よくわからない」は女性の方が高い。

年代別では、「特にない・よくわからない」は20代が最も高い。

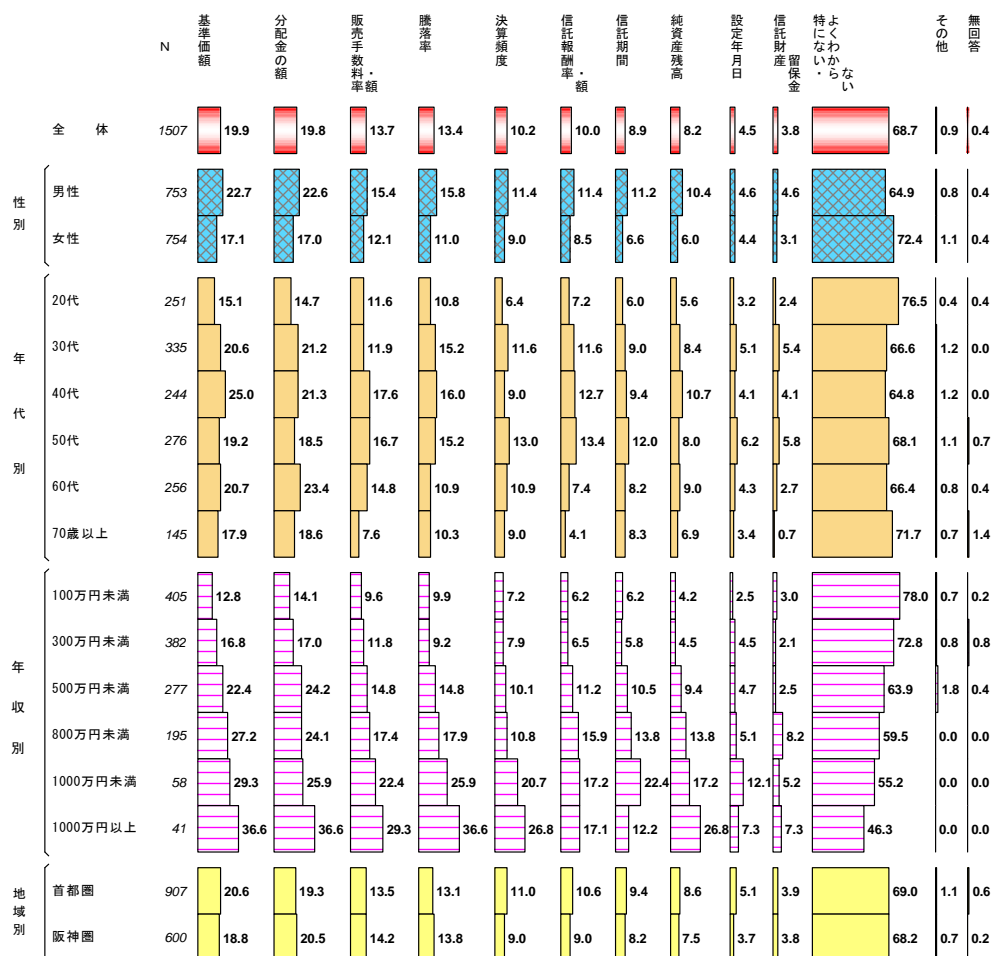
年収別では、多くの項目で年収が高くなるほど入手意向が高い傾向がみられる。

地域別では大きな差はみられない。

投資信託保有状況別については、非購入意向または非認知層は「特にない・よくわからない」が80%を占め、いずれの項目とも情報入手意向率は低い。なお、「騰落率」の入手意向率は保有経験層が最も高く、「純資産残高」は現在保有層で高い。

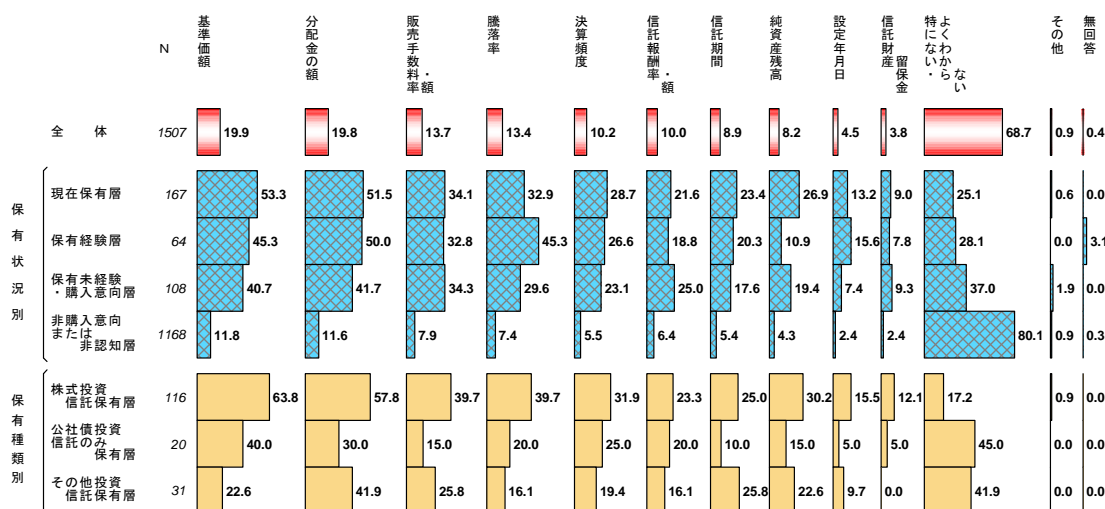
投資信託保有種類別にみると、株式投資信託保有層は「特にない・よくわからない」が低く、「基準価額」「分配金の額」を筆頭に、全般的に情報入手意向率が高い。

【投資信託を調べるにあたり入手したい情報(重複回答)／対象者属性別】



【投資信託を調べるにあたり入手したい情報(重複回答)／保有状況・保有種類別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



(4) 投資信託の広告接触状況

① 広告接触の有無

この2～3カ月の間に投資信託の広告を「見聞きしたことがある」のは71.8%と大半を占め、「見聞きしたことがない」は28.2%である。

前回調査と比べても、大きな変化はみられない。

対象者属性別については、性別では差はみられない。

年代別については、「見聞きしたことがある」率は20代のみ60%弱と低い。

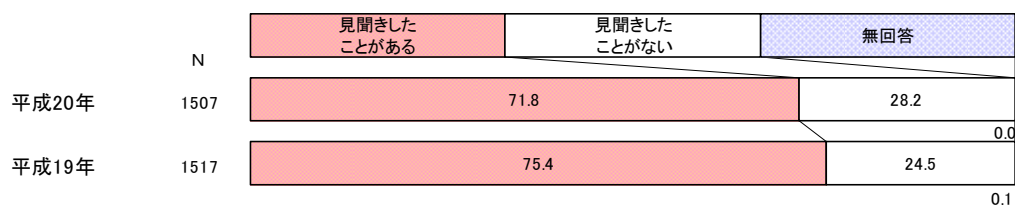
年収別では、「見聞きしたことがある」率は100万円未満の層では66.7%とやや低いが、1000万円以上の層では87.8%と高い。

地域差はほとんどみられない。

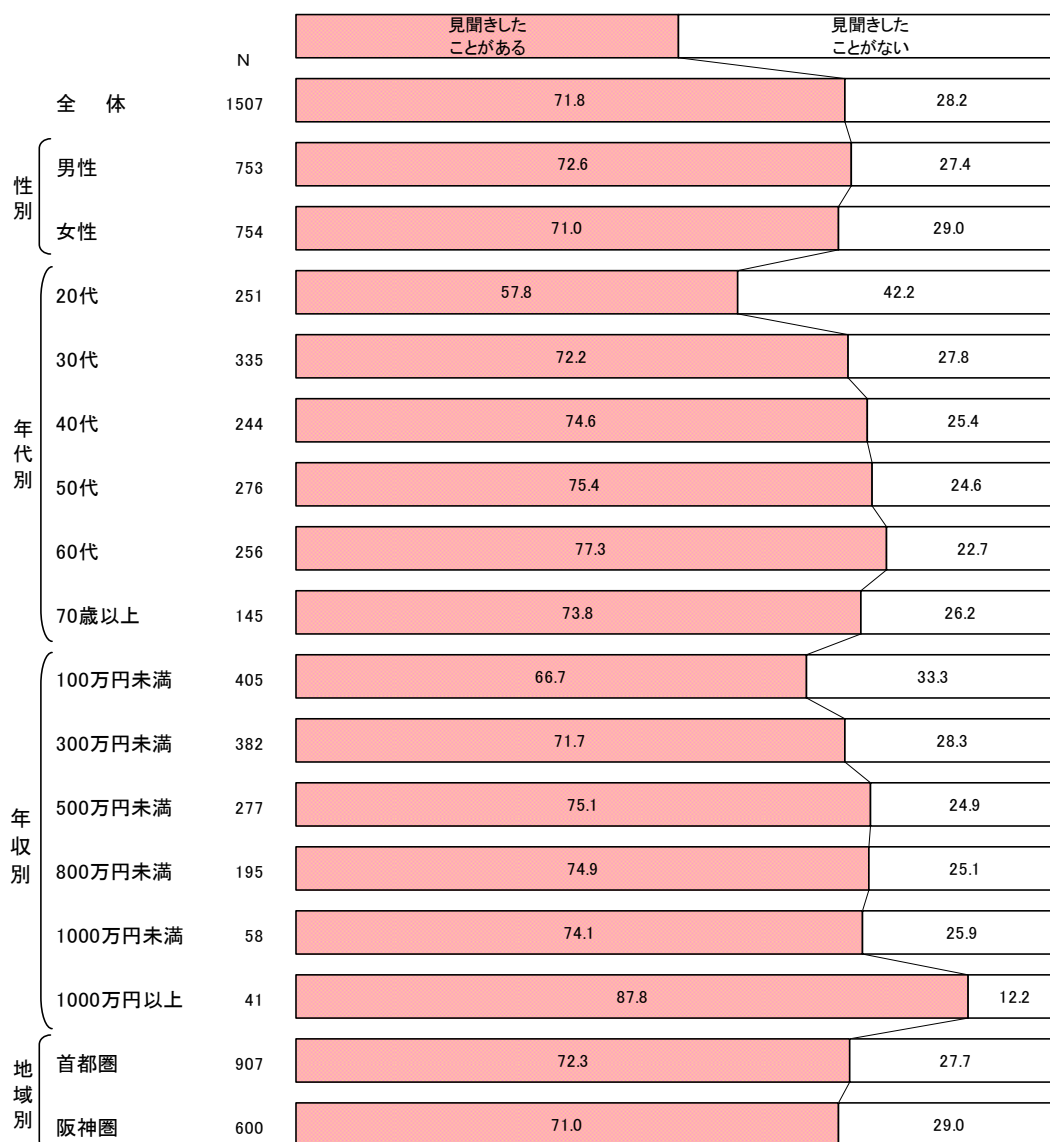
投資信託保有状況別については、「見聞きしたことがある」率は現在保有層で95.2%と特に高く、非購入意向または非認知層では66.0%と特に低い。

投資信託保有種類別では、その他投資信託保有層では「見聞きしたことがある」率が87.1%と、現在保有層の中では低い。

【投資信託の広告接触の有無(単数回答)／時系列】

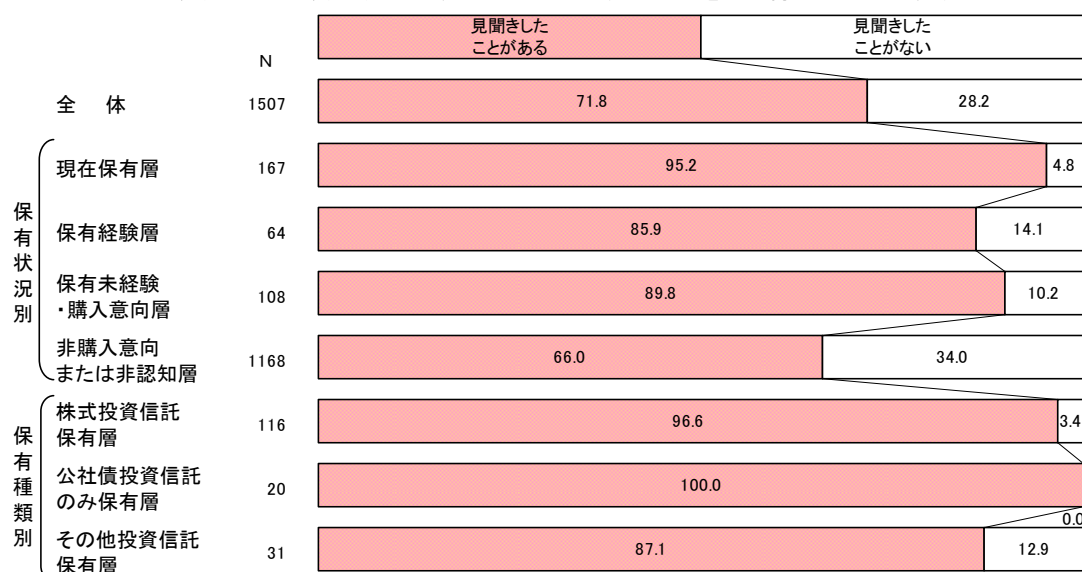


【投資信託の広告接触の有無(単数回答)／対象者属性別】



【投資信託の広告接触の有無(単数回答)／保有状況・保有種類別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



②特に印象の強い接触媒体(広告接触者)

広告を見聞きしたことのある広告接触層に、接触媒体の中で特に印象が強いものを尋ねたところ、「テレビ」が45.8%と半数近くを占め、次いで「新聞」が26.2%と高い。

前回調査と比べても大きな変化はみられない。

対象者属性別については、性別では、「テレビ」は女性で高く、「新聞」は男性で高い。

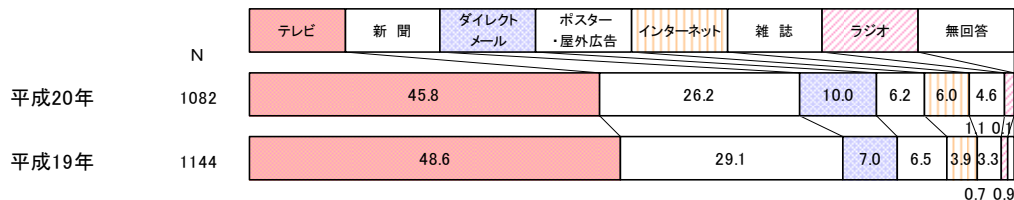
年代別では、20代では「テレビ」が64.8%を占め、「新聞」は12.4%と低い、年代が上がるにつれて「テレビ」は低下し、「新聞」が高くなる傾向がみられ、50代以上では両者が30%台ずつとなっている。「ダイレクトメール」は40代以上で10%台と比較的高くなっている。「インターネット」は年代が下がるほど高い傾向がみられる。

年収別では、“300万円未満”の層では「テレビ」が半数を占め最も高いが、年収が高くなるにつれ低下し、“800万円以上”の層では「新聞」が「テレビ」を上回っている。

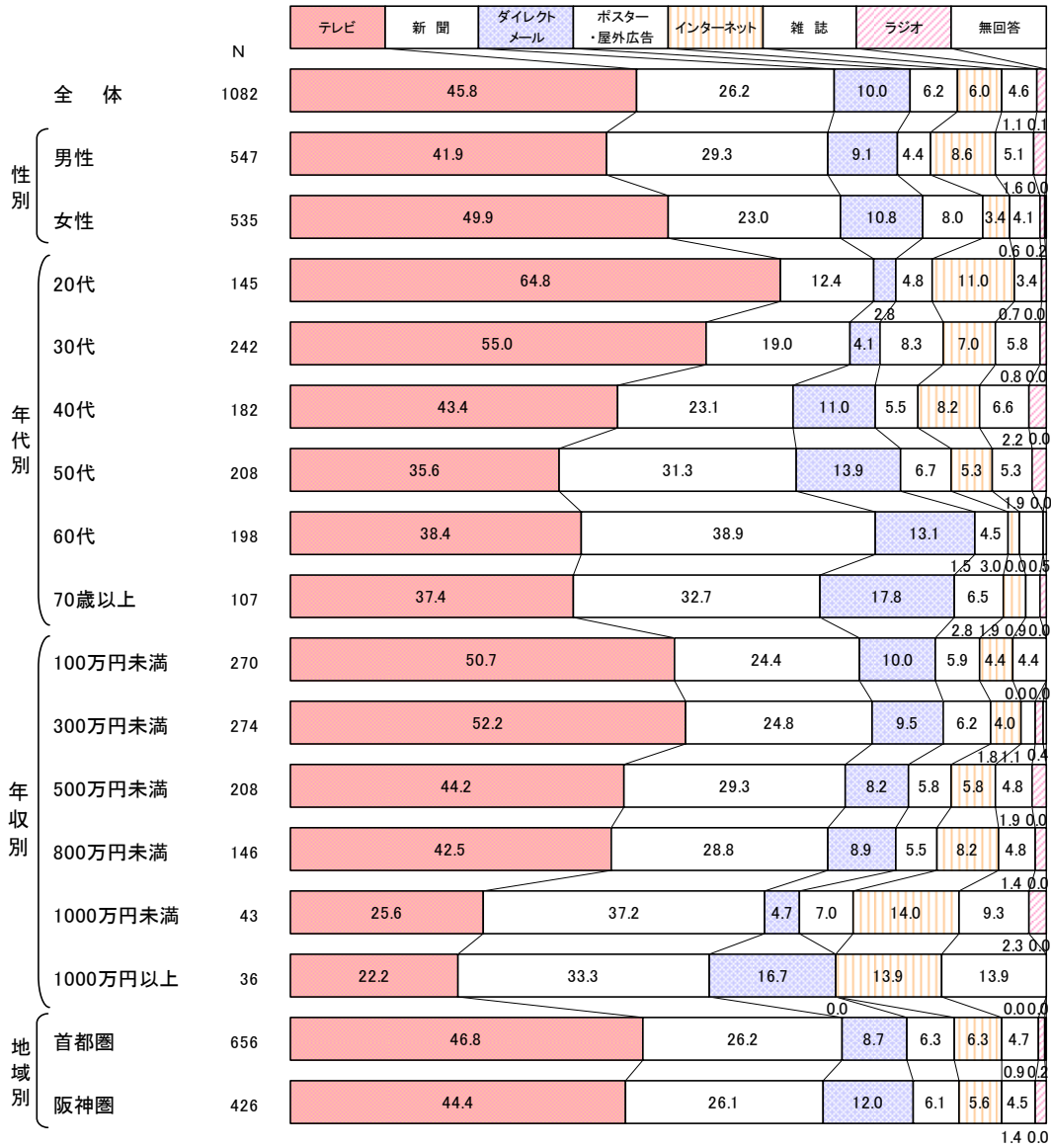
地域別には大きな差はみられない。

投資信託保有状況別については、現在保有層と保有経験層では「ダイレクトメール」の比率が高く、「テレビ」や「新聞」とともに、接触媒体として強い印象を残している。保有未経験・購入意向層では「テレビ」や「新聞」に次いで「インターネット」をあげる人が多く、「ポスター・屋外広告」や「雑誌」なども他の層に比べ高い。一方、非購入意向または非認知層では「テレビ」をあげる率が圧倒的に高く、「新聞」も25%弱存在するが、その他の項目は6%以下となっている。

【特に印象の強い接触媒体(単数回答)／時系列－広告接触者ベース】

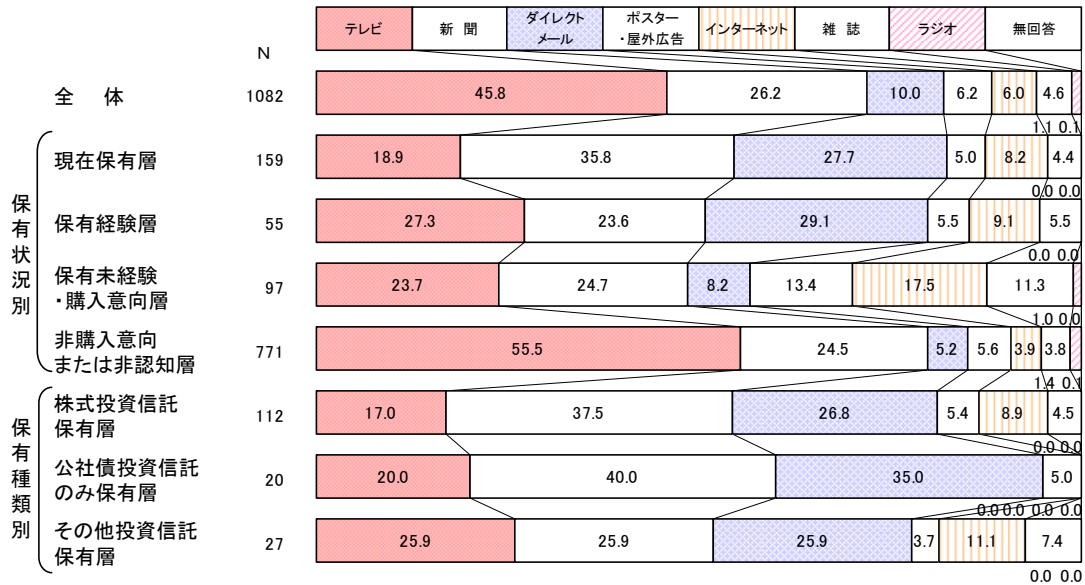


【特に印象の強い接触媒体(単数回答)／対象者属性別ー広告接触者ベース】



【特に印象の強い接触媒体(単数回答)／保有状況・保有種類別ー広告接触者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



(5) 投資信託の勧誘を受けた経験(投資信託認知者)

投資信託を「よく知っている」または「言葉だけは知っている」という認知者(57～58 ページ参照)の中で、これまでに投資信託の購入勧誘を受けた経験が「ある」のは36.8%、「ない」のは62.7%と、非経験者の方が多い。

前回調査と比べても、大きな変化はみられない。

対象者属性別については、性別では大きな差はみられない。

年代別では、勧誘経験率は、20代では5.6%と低いが、年代が上がるにつれ高まり、70歳以上では64.7%にのぼる。

年収別では、勧誘経験率は“800万円未満”では30%台で一定しているが、800万円以上1000万円未満の層から急増し、1000万円以上の層では63.4%と高い。

地域別では、大きな差はみられない。

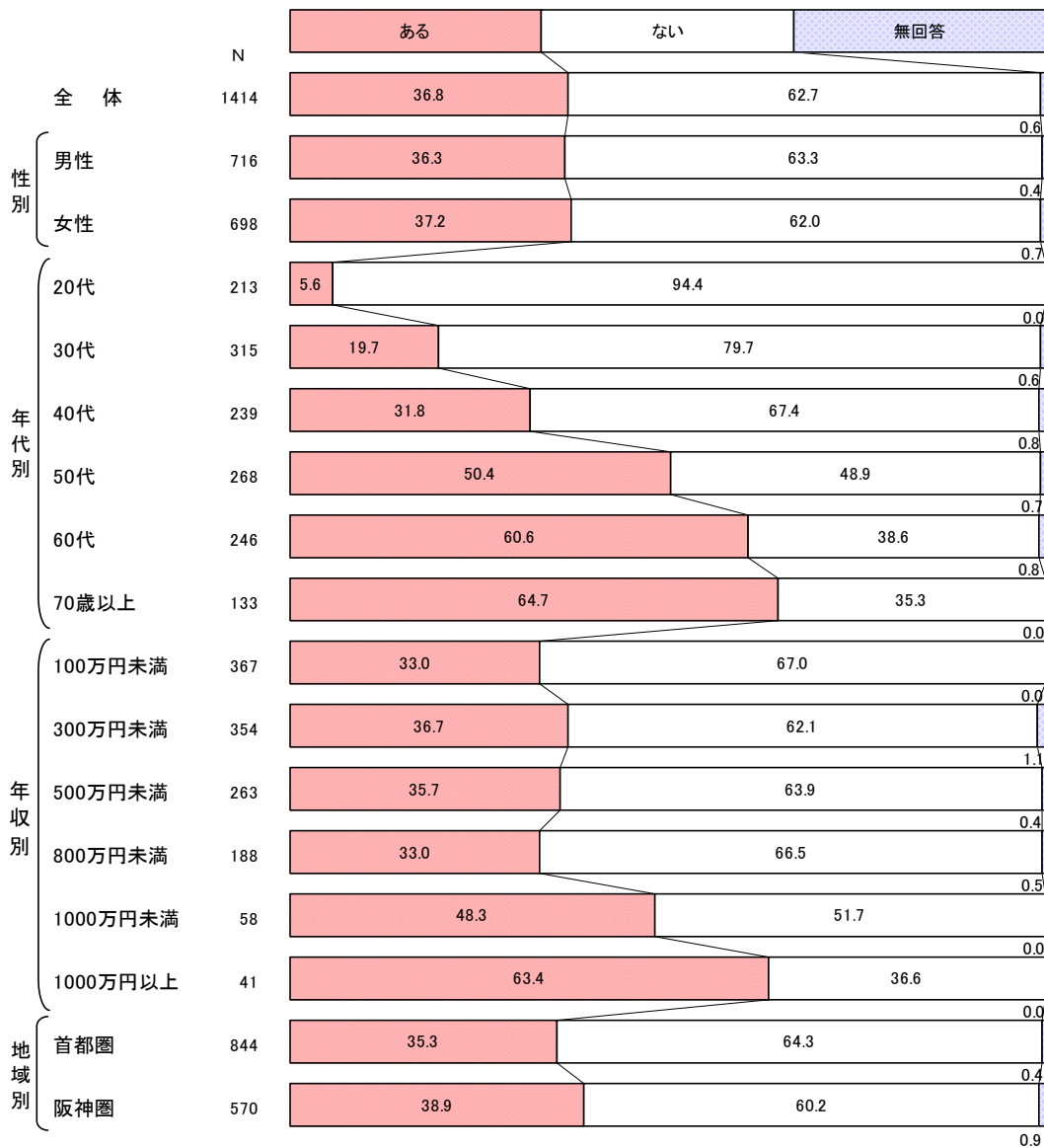
投資信託保有状況別については、勧誘経験率は現在保有層と保有経験層では95%近くと高いのに対し、保有未経験・購入意向層では53.7%に下がり、非購入意向層では22.8%と低い。

投資信託保有種類別では、株式投資信託保有層とその他投資信託保有層ではほとんど全員が「ある」となっている。

【投資信託の勧誘を受けた経験(単数回答)／時系列－投資信託認知者ベース】

	N	ある	ない	無回答
平成20年	1414	36.8	62.7	0.6
平成19年	1452	36.0	63.8	0.2

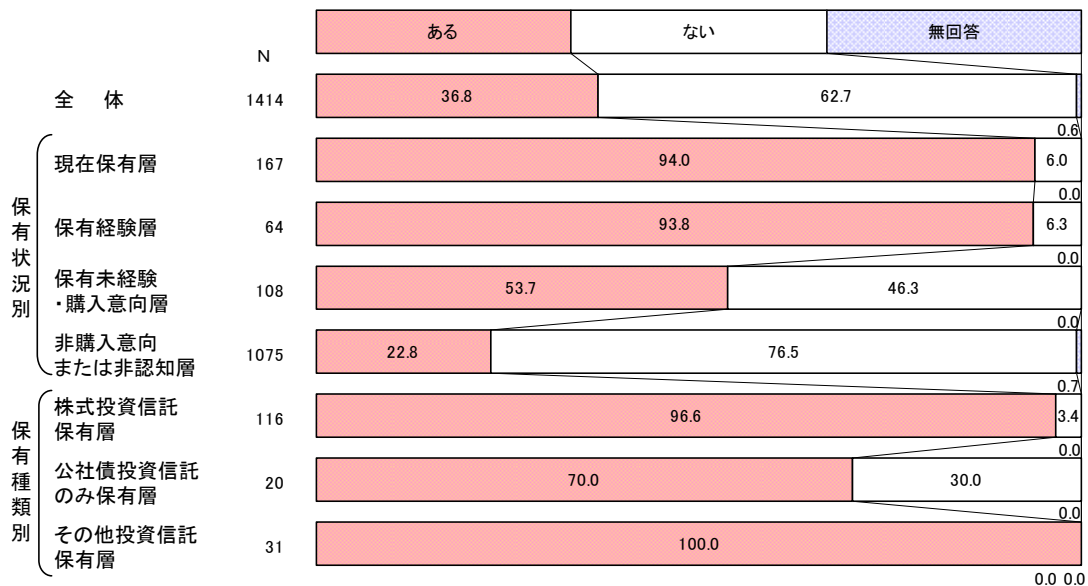
【投資信託の勧誘を受けた経験(単数回答)／対象者属性別－投資信託認知者ベース】



【投資信託の勧誘を受けた経験(単数回答)／保有状況・保有種類別

－投資信託認知者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



(6) 確定拠出年金の加入状況

確定拠出年金(日本版 401k)の加入状況については、「加入しており、投資信託を購入している」は 1.4%、「加入しているが、投資信託は購入していない」は 3.1%であり、両者を合わせた“加入率”は 4.5%に過ぎない。

前回調査と比べても、大きな変化はみられない。

対象者属性別については、性別では大きな差はみられない。

年代別では「加入しているが投資信託は購入していない」は 30代と 40代で他の年代よりやや高いが、それでも 6%前後に過ぎず、“加入率”は 10%弱となっている。

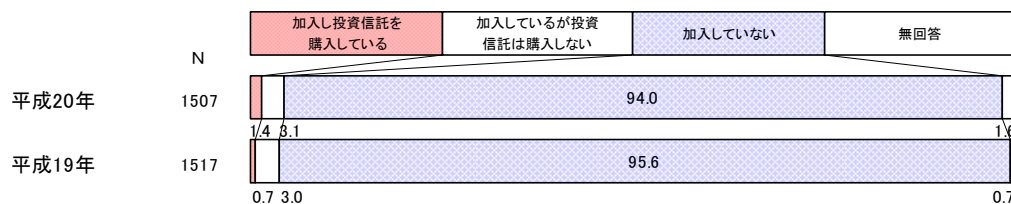
年収別では、“加入率”は“500万円未満”の層では 2~3%程度にとどまるが、“500万円以上 1000万円未満”の層では 10%前後みられ、1000万円以上では 19.5%と高い。

地域別では“加入率”に大きな差はみられない。

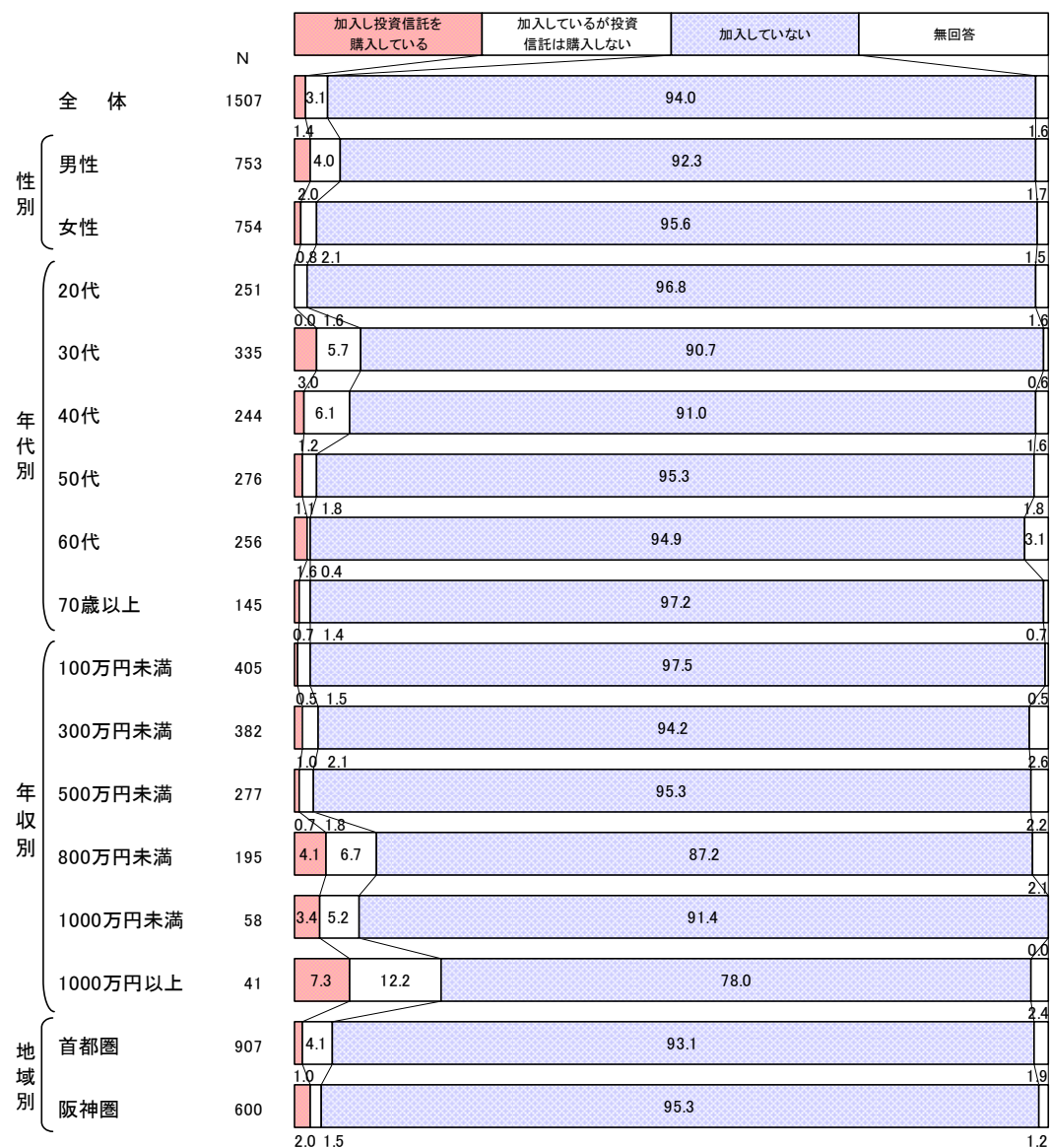
投資信託保有状況別でみると、“加入率”は現在保有層で最も高く 11.4%、次いで保有経験層、保有未経験・購入意向層、非購入意向または非認知層の順となっている。現在保有層では「加入し投資信託を購入している」は 9%ほどみられる。

投資信託保有種類別では、“加入率”はいずれも 10%前後みられ、大きな差はみられない。

【確定拠出年金の加入状況(単数回答)／時系列】

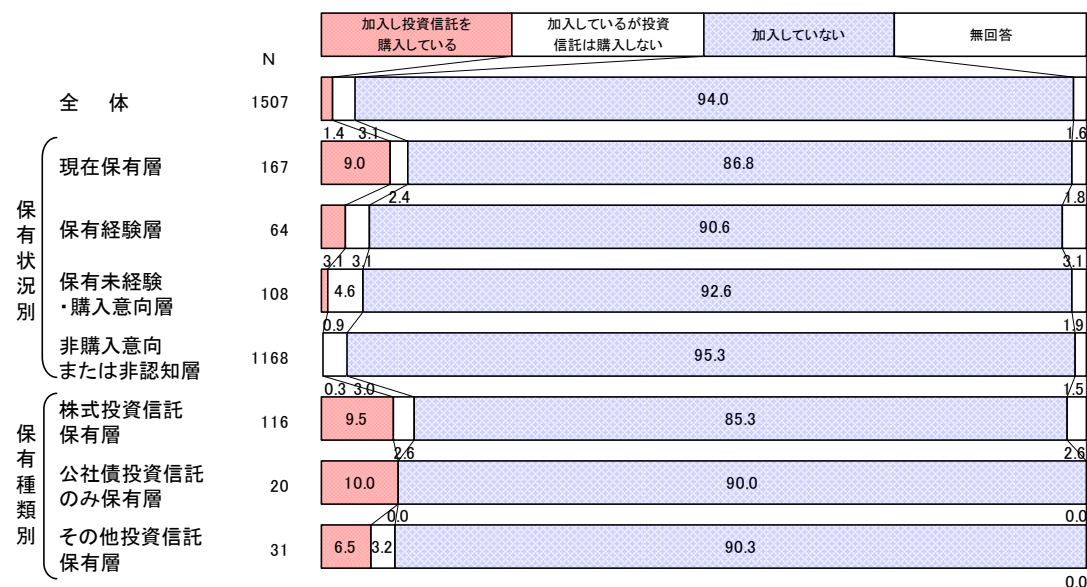


【確定拠出年金の加入状況(単数回答)／対象者属性別】



【確定拠出年金の加入状況(単数回答)／保有状況別・保有種類別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。



(7) 特例措置に対する意向

株式投資信託や上場投資信託等の税制改正による特例措置については、「恒久化して欲しい」が最も高いが6.8%に過ぎず、86.9%が「特にない・よくわからない」と答えている。

対象者属性別については、性別では男性より女性の方が「特にない・よくわからない」が高い。

年代別にみると、いずれの年代とも大多数が「特にない・よくわからない」と答えているが、50～60代はやや低い。

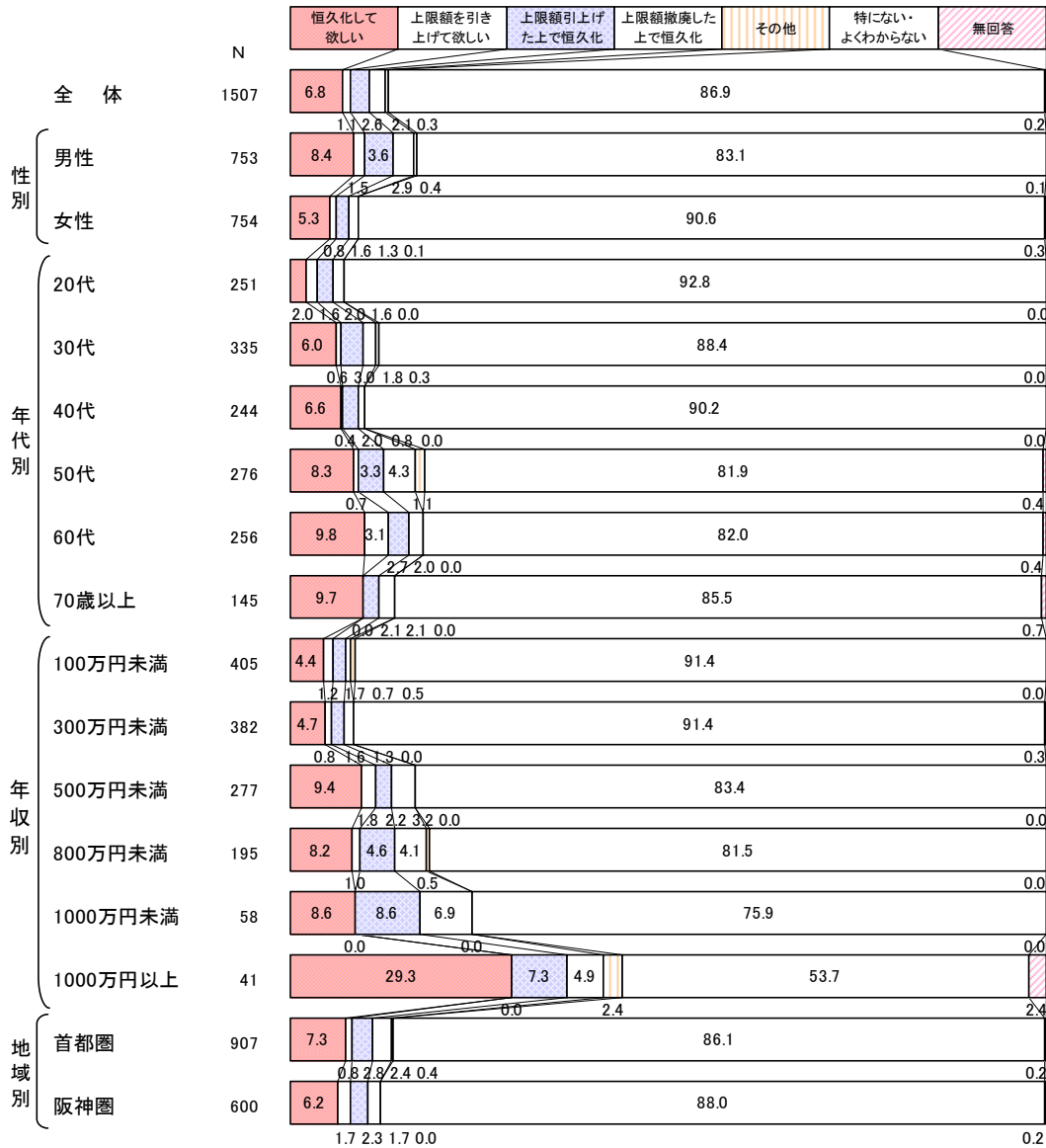
年収別では、「特にない・よくわからない」は年収が低い層ほど高い。年収が高い層ほど何らかの意見を持っている率が高まり、特例措置を「恒久化して欲しい」は1000万円以上の層では29.3%と特に高い。

地域別では、大きな差はみられない。

投資信託保有状況別でみると、現在保有層と保有経験層では、「恒久化して欲しい」が25%前後、「上限額を引き上げた上で恒久化」「上限額を撤廃した上で恒久化」もそれぞれ6～9%程度みられ、恒久化に対する意向が強い。また、保有未経験・購入意向層でも「恒久化して欲しい」が16.7%みられ、非購入意向または非認知層(2.0%)との差がみられる。

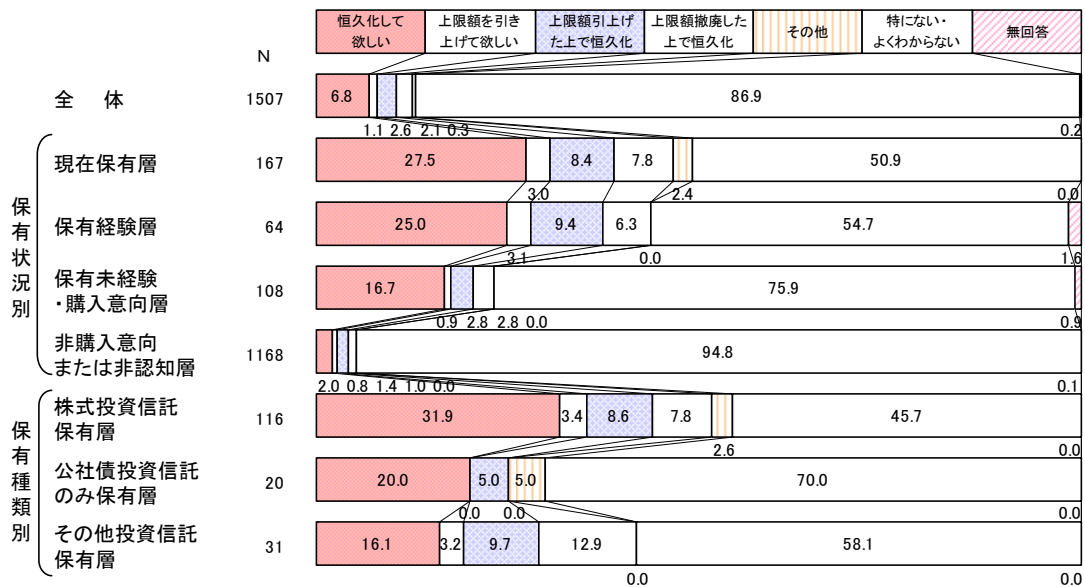
投資信託保有種類別では、株式投資信託保有層では「特にない・よくわからない」は45.7%と低く、「恒久化して欲しい」が31.9%と高い。

【特例措置に対する意向(単数回答)／対象者属性別】



【特例措置に対する意向(単数回答)／保有状況別・保有種類別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



(8) 上場投資信託の認知と興味

① 上場投資信託の認知

証券取引所に上場している投資信託の認知率は、「不動産投信」(10.9%)と「ベンチャーファンド」(10.0%)がほぼ同率であり、「ETF」は8.2%である。「1つも知らなかった」が79.2%と大半を占め、上場投資信託についてはあまり知られていない。

前回調査と比べても、大きな変化はみられない。

対象者属性別については、性別では、「1つも知らなかった」は男性より女性の方がやや高く、「不動産投信」と「ETF」の上場認知率は男性の方がやや高い。

年代別でみると20代は「1つも知らなかった」が約90%と高いが、年代が上がるにつれ下がり、50代以上は75%前後でほぼ一定となっている。

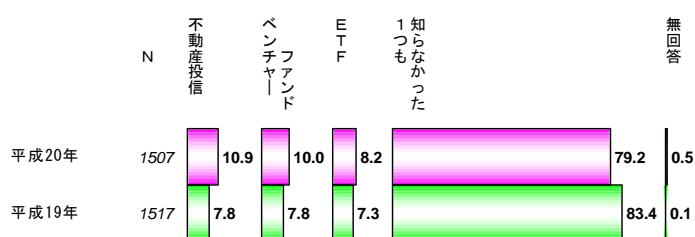
年収別では、3項目とも認知率は年収が高くなるほど高まり、特に1000万円以上の層では「不動産投信」は39.0%、「ETF」は34.1%、「ベンチャーファンド」も22.0%に認知されている。

地域別では大きな差はみられない。

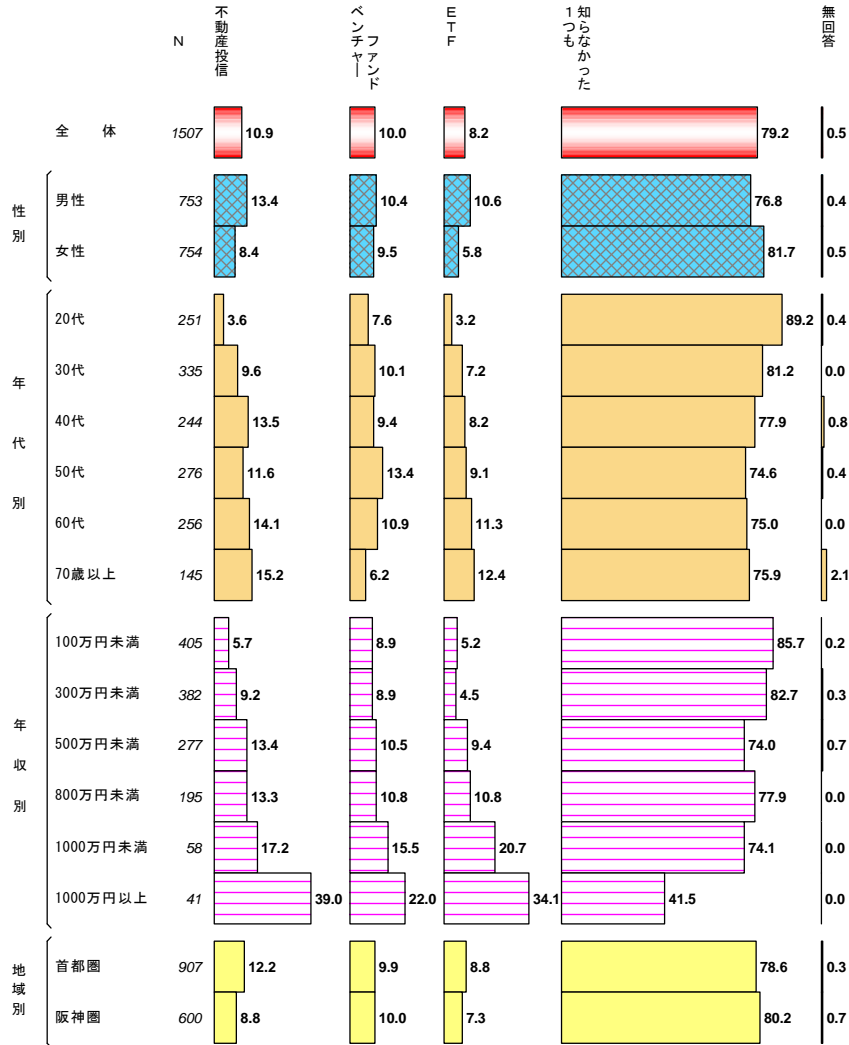
投資信託保有状況別については、現在保有層は「不動産投信」と「ETF」の上場認知率が35%ほどと特に高い。保有経験層と保有未経験・購入意向層では、3項目とも上場認知率は10%台みられるが、非購入意向または非認知層ではもっとも高い「ベンチャーファンド」でも8.6%に過ぎず、ほとんど知られていない。

投資信託保有種類別でみると、その他投資信託保有層では「ETF」が45.2%と高く、「ベンチャーファンド」は9.7%の認知にとどまっている。

【上場投資信託の認知(重複回答)／時系列】

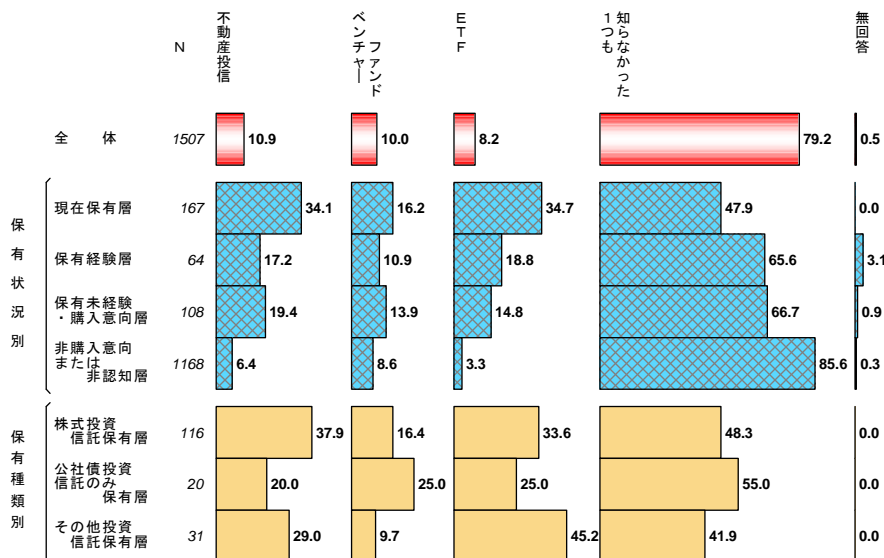


【上場投資信託の認知(重複回答)／対象者属性別】



【上場投資信託の認知(重複回答)／保有状況・保有種類別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要



② E T F への興味

上場投資信託のうち E T F については、「現在保有している」は 1.3%、「購入してみたい」は 2.8%である。

前回調査と比べても、大きな変化はみられない。

対象者属性別については、性別では大きな差はみられない。

年代別については、「購入するつもりはない」は年代が上がるにつれてにわずかながら低下していき傾向がみられる。

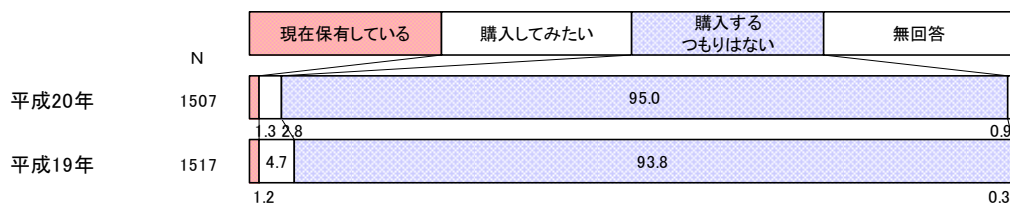
年収別については、「購入してみたい」は年収が高くなるほど高まる傾向がみられ、100万円以上の層では 14.6%にのぼる。

地域別の差では大きな差はみられない。

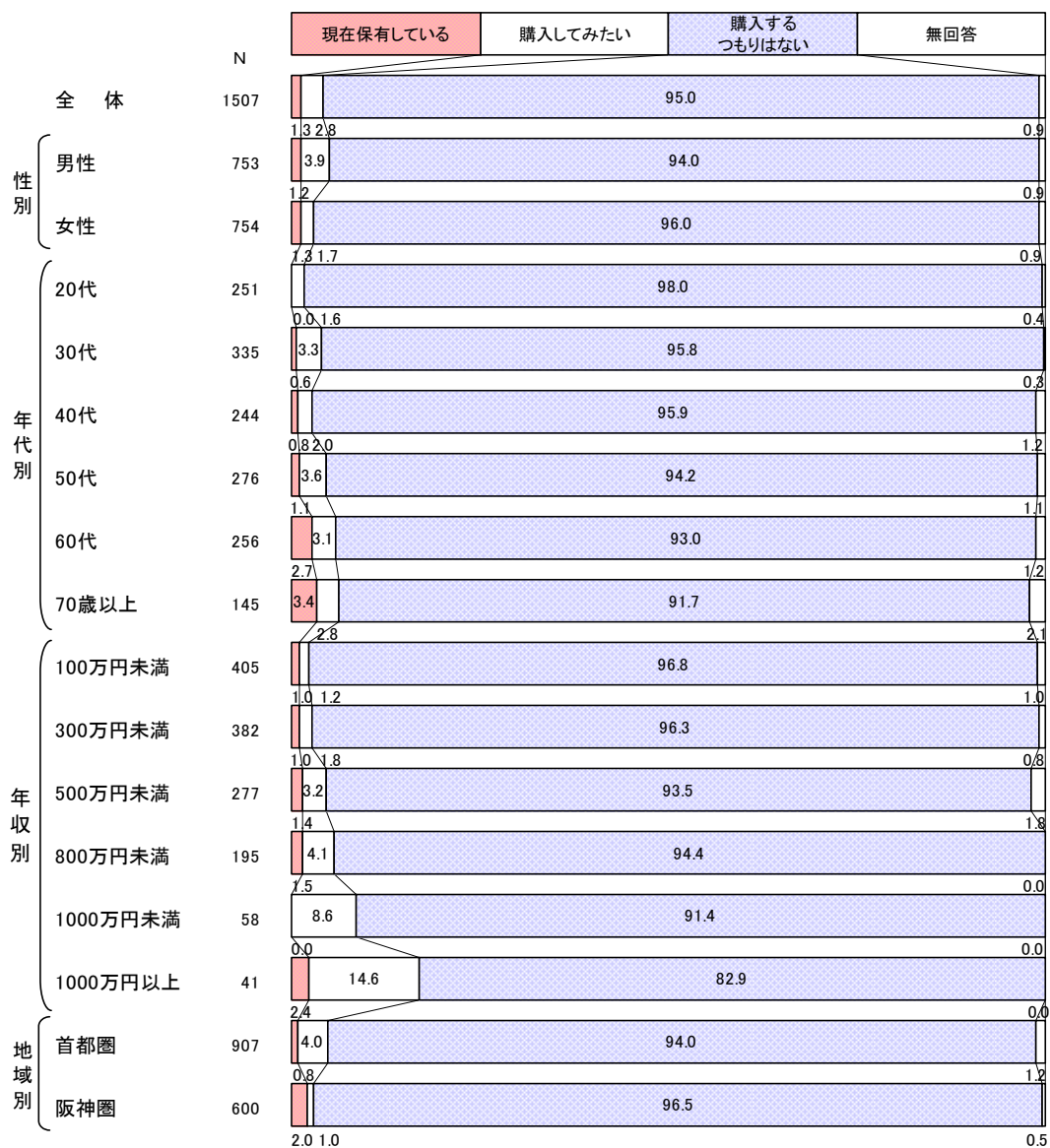
投資信託保有状況別については、現在保有世帯では「現在保有している」が 11.4%と高い。「購入してみたい」は現在保有層、保有経験層、保有未経験・購入意向層とも 10%前後みられる。

投資信託保有種類別については、「現在保有している」は株式投資信託保有層では 8.6%に対し、その他投資信託保有層では 29.0%と高い。

【 E T F への興味(単数回答) / 時系列】

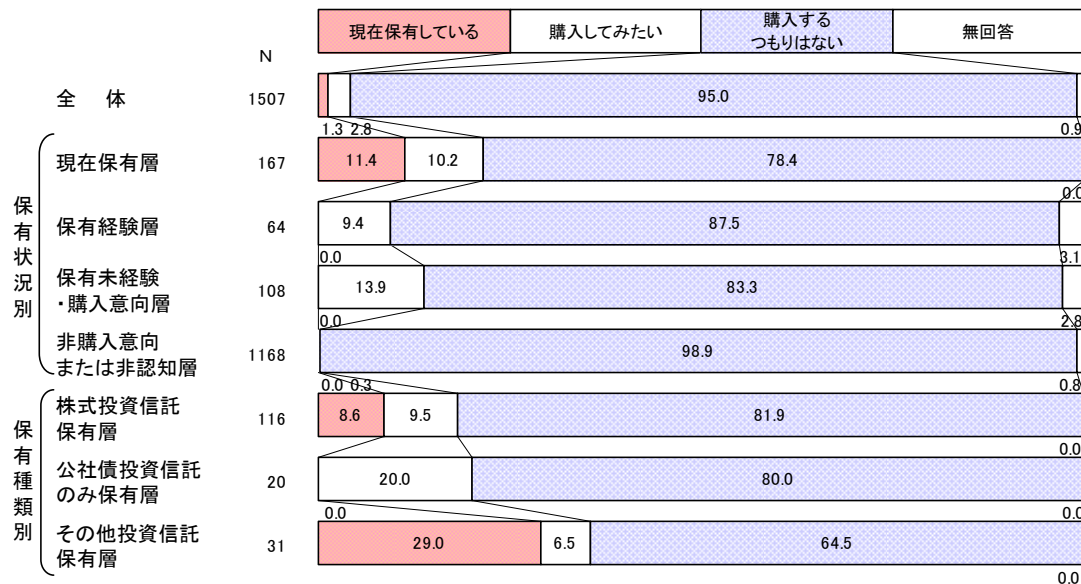


【ETFへの興味(単数回答) / 対象者属性別】



【ETFへの興味(単数回答) / 保有状況・保有種類別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要



③不動産投信への興味

上場投資信託のうち不動産投信については、「現在保有している」は0.9%、「購入してみたい」は2.0%である。

前回調査と比べても、大きな変化はみられない。

対象者属性別については、性別・年代別では大きな差はみられない。

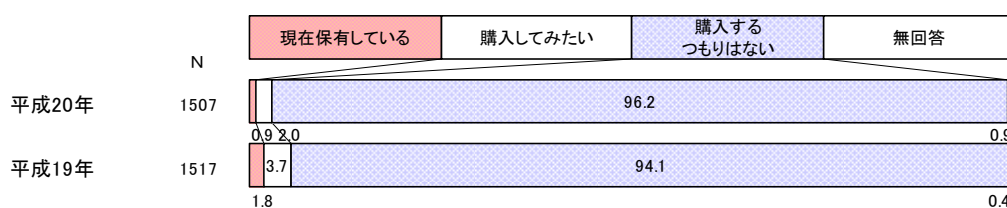
年収別では、「現在保有している」は1000万円以上の層では9.8%と高い。「購入してみたい」は800万円以上1000万円未満の層で10.3%と最も高く、その上下の層でも5%ほどみられる。

地域差では、大きな差はみられない。

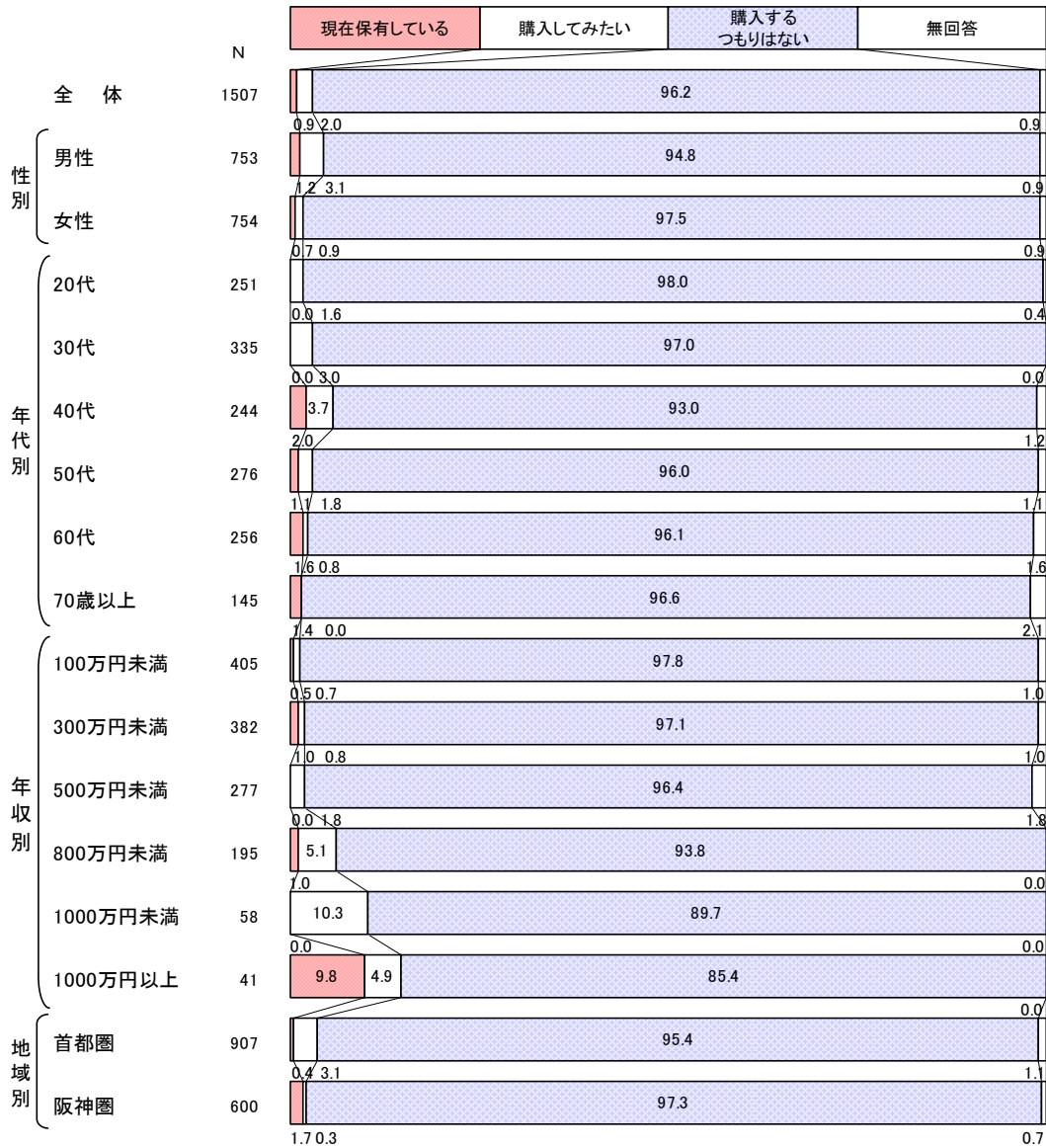
投資信託保有状況別については、現在保有層の8.4%が不動産投信を「現在保有している」。「購入してみたい」は保有未経験・購入意向層で10.2%と高く、現在保有層、保有経験層でも5%前後みられる。

投資信託保有種類別では、不動産投信の現在保有率は株式投資信託保有層とその他投資信託保有層では各10%弱みられる。

【不動産投信への興味(単数回答) / 時系列】

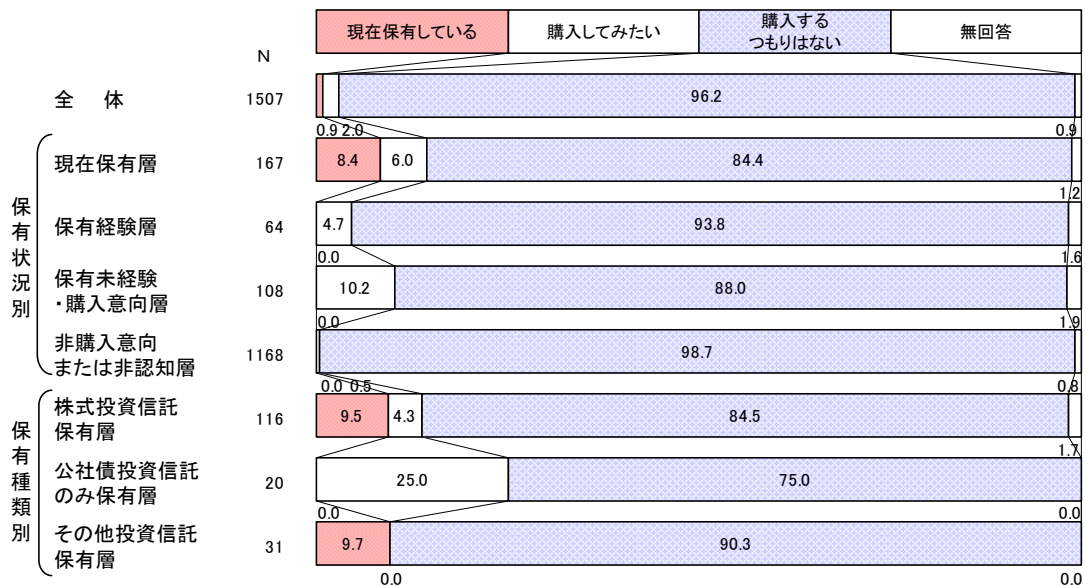


【不動産投信への興味(単数回答) / 対象者属性別】



【不動産投信への興味(単数回答) / 保有状況・保有種類別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要



④ベンチャーファンドへの興味

上場投資信託のうちベンチャーファンドについては、「現在保有している」が0.2%、「購入してみたい」が2.5%であり、ETF、不動産投信に比べると「現在保有している」は最も低い。

対象者属性別については、性別・年代別で大きな差はみられない。

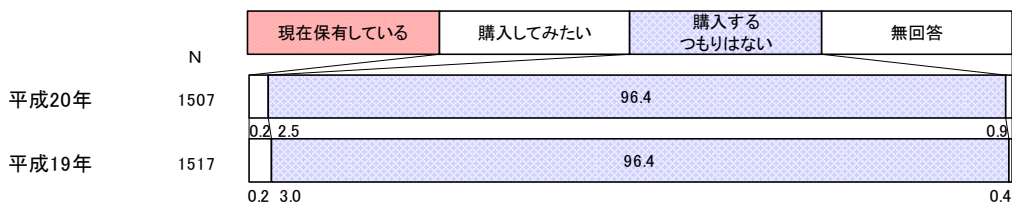
年収別では、「購入してみたい」は年収が高くなるにほど高まる傾向がみられ、800万円以上の層では10%前後を占める。

地域別では、大きな差はみられない。

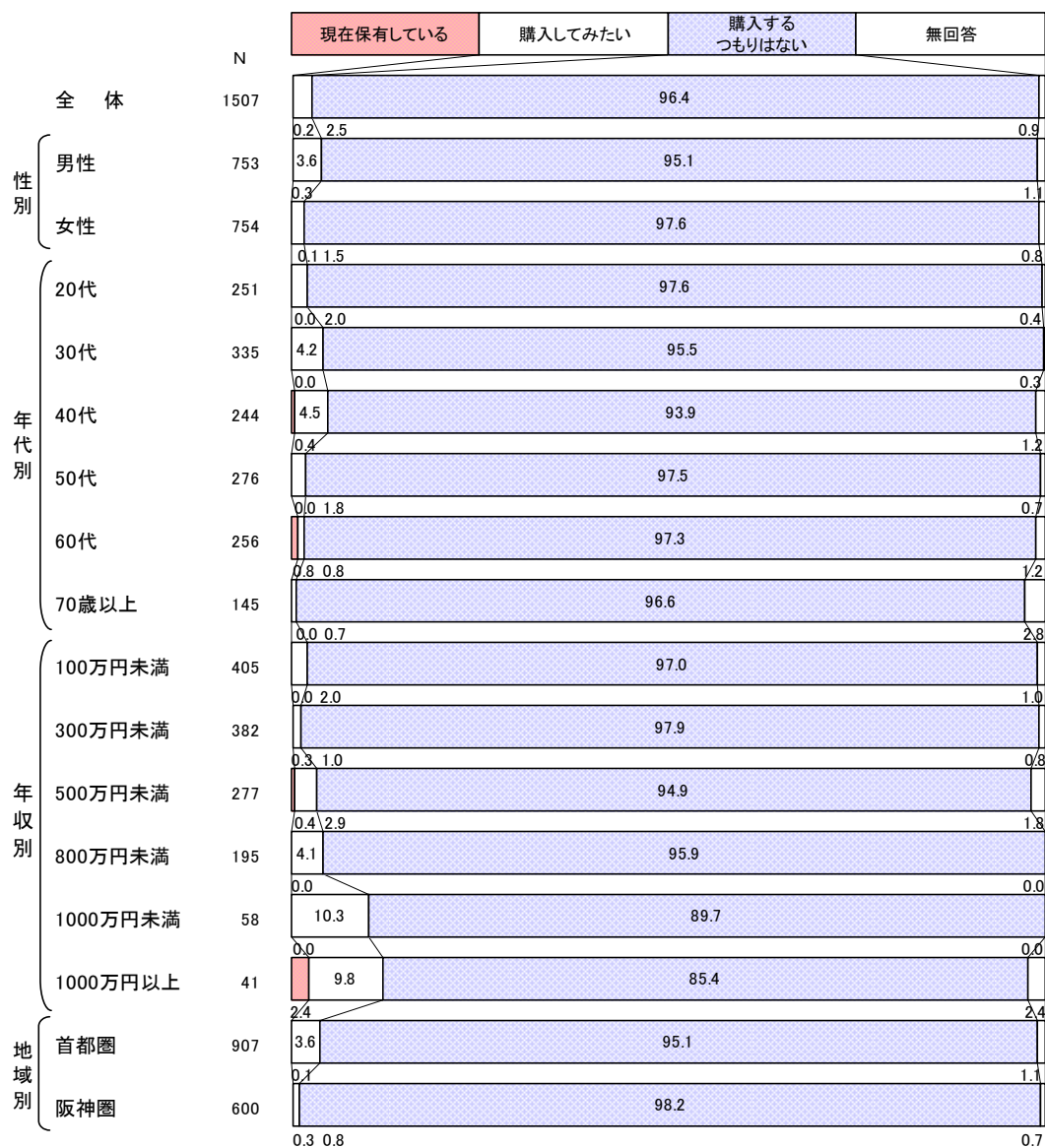
投資信託保有状況別については、現在保有層でも「現在保有している」は2%ほどに過ぎない。「購入してみたい」は投資信託保有未経験・購入意向層で14.8%と高く、現在保有層や保有経験層では5%前後みられる。

投資信託保有種類別では、N数(サンプル数)が少ない層があるため参考データとなるが、「購入してみたい」は公社債投資信託のみ保有層で15.0%とやや高い。

【ベンチャーファンドへの興味(単数回答) /時系列】

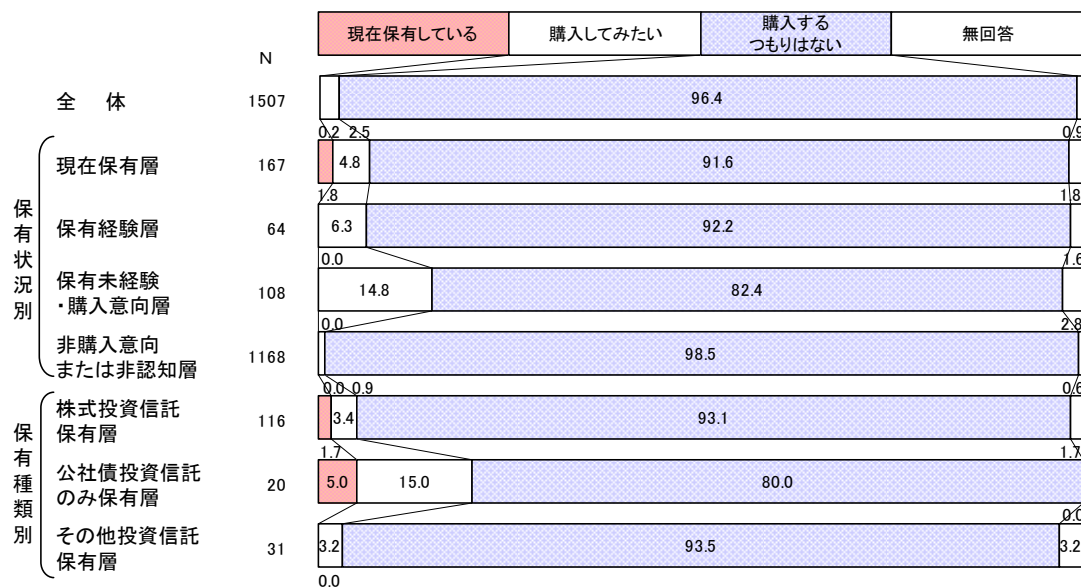


【ベンチャーファンドへの興味(単数回答) / 対象者属性別】



【ベンチャーファンドへの興味(単数回答) / 保有状況・保有種類別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要



(9) 金融商品取引法施行の影響

①金融商品取引法施行後の投資信託購入状況

平成19年10月以降の投資信託の新規または追加購入状況については、「購入した」は3.8%、「購入していないが検討した」は2.4%であり、「購入の検討もしなかった」が93.4%と大半を占める。

対象者属性別については、性別では「購入した」「購入していないが検討した」ともに大きな差はみられない。

年代別では、「購入の検討もしなかった」は年代が高くなるにつれて低くなっている。

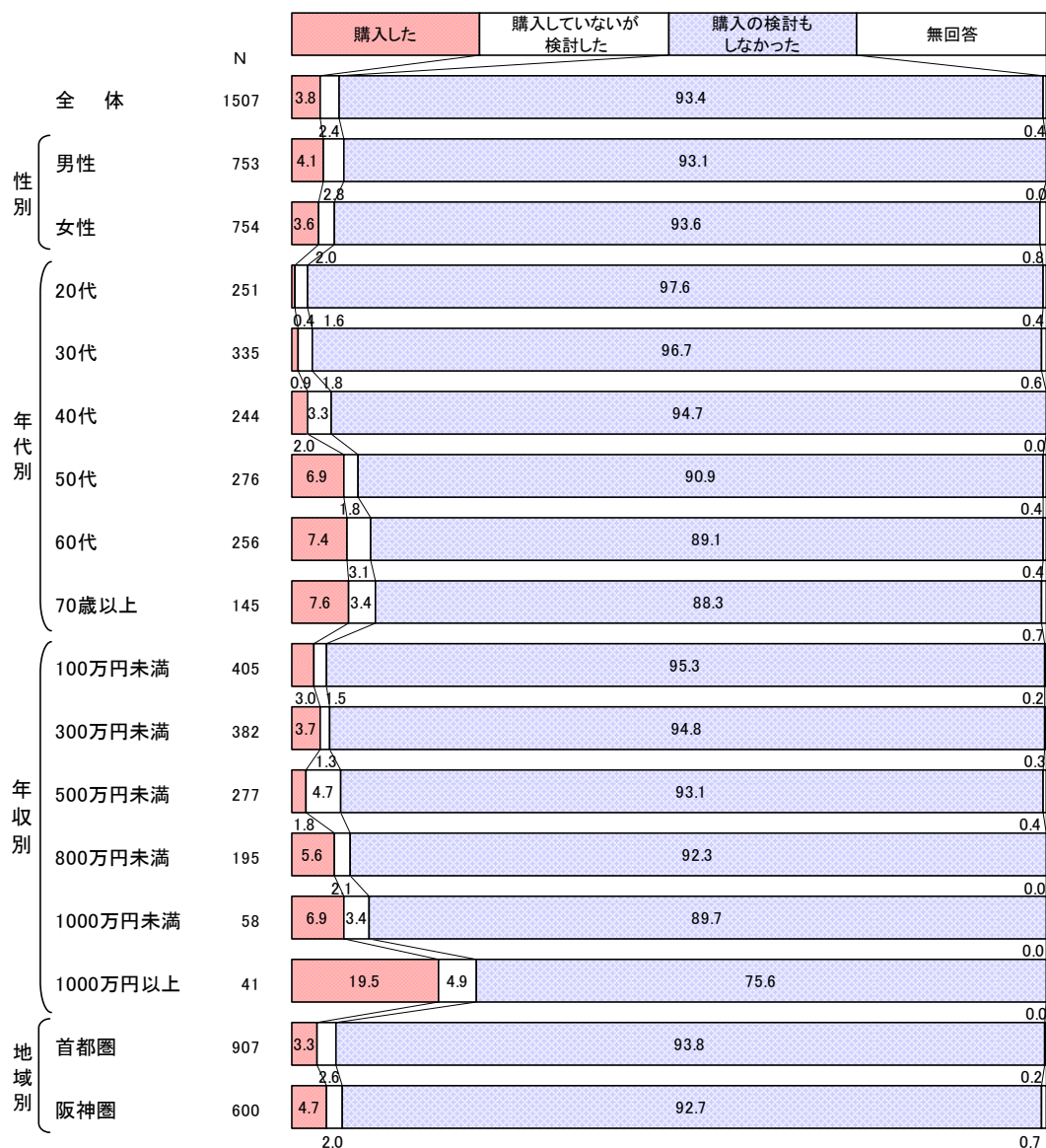
年収別では、「購入した」は1000万円以上の層で19.5%と特に高い。

地域別では、大きな差はみられない。

投資信託保有状況別については、「購入した」は現在保有層では34.1%を占める。また、「購入していないが検討した」も13.2%と高い。「購入していないが検討した」は保有未経験・購入意向層でも8.3%を占め、比較的高い。

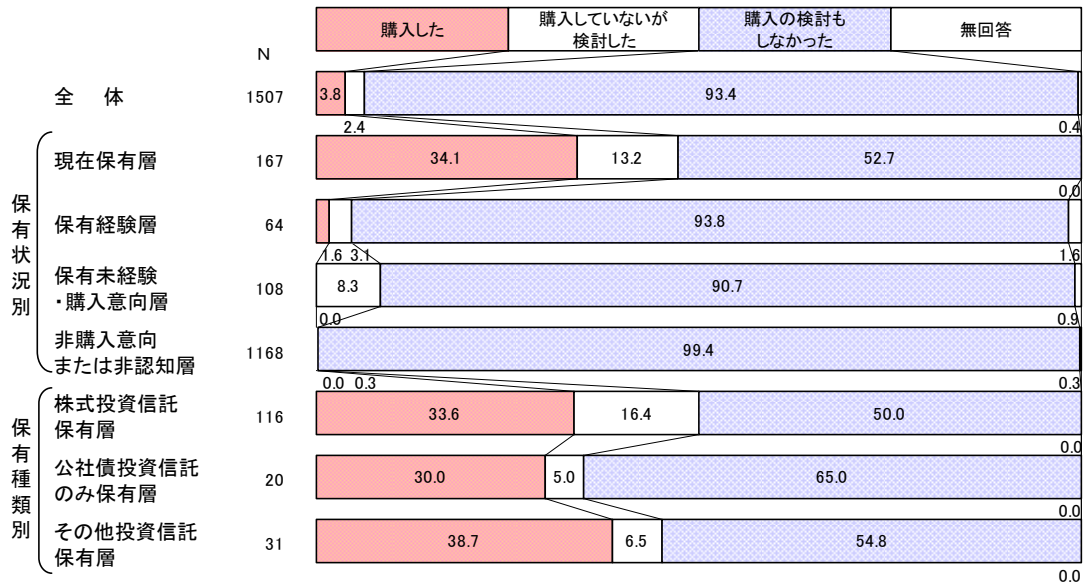
保有種類別では、株式投資信託保有層でやや高い。

【金融商品取引法施行後の投資信託購入状況(単数回答)／対象者属性別】



【金融商品取引法施行後の投資信託購入状況(単数回答)／保有状況・保有種別別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要



②金融商品取引法施行後の販売会社の商品説明に対する印象

金融商品取引法施行後に投資信託を購入・検討した人に対し、販売会社の商品説明について尋ねたところ、「説明に要する時間が長すぎる」「説明も含めた手続きが煩わしくなった」ともに 27.7%、「説明事項が多く重要ポイントが理解できない」(25.5%)という不満が高く、「投資経験に応じた説明をして欲しい」(26.6%)という要望も高い。これに対し、「説明が丁寧になってわかりやすくなった」とプラスに評価する割合は 19.1%と低い。

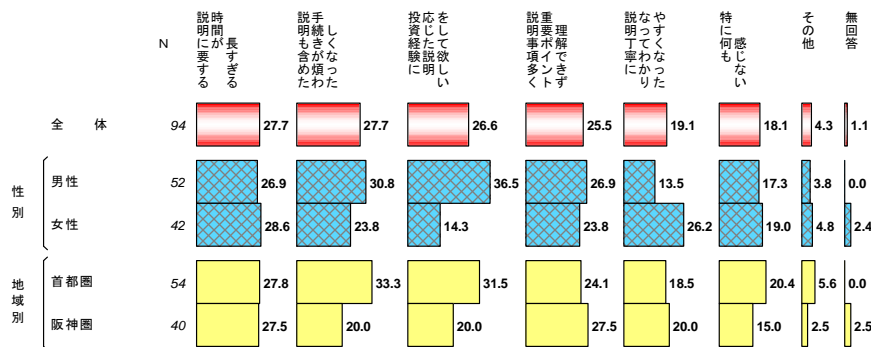
対象者属性別については、性別では「説明も含めた手続きが煩わしくなった」「投資経験に応じた説明をして欲しい」は女性より男性で高い。

地域別では、「説明も含めた手続きが煩わしくなった」「投資経験に応じた説明をして欲しい」は首都圏の方が阪神圏より高い。

【販売会社の商品説明に対する印象(重複回答)】

／対象者属性別－金融商品取引法施行後の投資信託購入・検討者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要



(上段:N)(下段:%)

	全体	説明に要する時間が長すぎる	説明も含めた手続きが煩わしくなった	投資経験に応じた説明をして欲しい	説明事項が多く重要ポイントが理解できず	説明丁寧になってわかりやすくなった	特に何も感じない	その他	無回答
年代別	20代	5	2	1	1	3	1	-	1
		100.0	40.0	20.0	20.0	60.0	20.0	-	20.0
	30代	9	3	3	2	3	1	4	1
		100.0	33.3	33.3	22.2	33.3	11.1	44.4	11.1
	40代	13	4	4	-	4	2	4	-
		100.0	30.8	30.8	-	30.8	15.4	30.8	-
	50代	24	5	6	5	6	6	3	1
	100.0	20.8	25.0	20.8	25.0	25.0	12.5	4.2	
60代	27	7	7	13	6	6	4	-	
	100.0	25.9	25.9	48.1	22.2	22.2	14.8	-	
70歳以上	16	5	5	4	2	2	2	1	
	100.0	31.3	31.3	25.0	12.5	12.5	12.5	6.3	
年取別	100万円未満	18	5	6	5	5	3	3	-
		100.0	27.8	33.3	27.8	27.8	16.7	16.7	-
	300万円未満	19	3	4	4	4	8	2	2
		100.0	15.8	21.1	21.1	21.1	42.1	10.5	10.5
	500万円未満	18	9	4	7	6	2	4	1
		100.0	50.0	22.2	38.9	33.3	11.1	22.2	5.6
	800万円未満	15	4	3	3	2	3	4	1
	100.0	26.7	20.0	20.0	13.3	20.0	26.7	6.7	
1000万円未満	6	1	2	1	3	-	1	-	
	100.0	16.7	33.3	16.7	50.0	-	16.7	-	
1000万円以上	10	2	2	4	1	2	2	-	
	100.0	20.0	20.0	40.0	10.0	20.0	20.0	-	

【販売会社の商品説明に対する印象(重複回答)

／保有状況・保有種類別—金融商品取引法施行後の投資信託購入・検討者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要

(上段:N)(下段:%)

	全 体	説明に要する 時間が 長すぎる	説明も含めた 手続きが 煩わしくなった	投資経験に 応じた説明 をして欲しい	説明事項多く 重要ポイント 理解できず	説明丁寧な なってわかり やすくなった	特に何も 感じない	その他	無回答
全 体	94 100.0	26 27.7	26 27.7	25 26.6	24 25.5	18 19.1	17 18.1	4 4.3	1 1.1
保有 状況 別	現在保有層	79	23	22	21	18	17	13	2
	100.0	29.1	27.8	26.6	22.8	21.5	16.5	2.5	1.3
	保有経験層	3	1	1	2	2	-	-	-
	100.0	33.3	33.3	66.7	66.7	-	-	-	-
	保有未経験 ・購入意向層	9	1	3	1	2	1	3	2
100.0	11.1	33.3	11.1	22.2	11.1	33.3	22.2	-	
非購入意向または 非認知層	3	1	-	1	2	-	1	-	-
100.0	33.3	-	33.3	66.7	-	33.3	-	-	
保有 種類 別	株式投資信託	58	16	18	17	12	16	9	2
	保有層	100.0	27.6	31.0	29.3	20.7	27.6	15.5	3.4
	公社債投資信託 のみ保有層	7	3	1	-	2	-	2	-
	100.0	42.9	14.3	-	28.6	-	28.6	-	-
その他投資信託	14	4	3	4	4	1	2	-	
保有層	100.0	28.6	21.4	28.6	28.6	7.1	14.3	-	7.1

7. 投資信託への期待・関心状況(全体)

(1) 貯蓄の運用方針

今後の貯蓄方法について最優先して考えていることは、「元本保証がされていること」が最も高く、54.6%と半数を超える。次いで「少額でも出し入れ自由」(14.7%)、「利回り」(12.9%)が比較的高いが、それ以外は10%に満たない。

前回調査と比べても大きな変化はみられない。

対象者属性別にみると、性別では、「元本保証がされていること」は男性より女性が高く、「利回り」は男性の方がやや高い。

年代別では、20代は他の年代に比べ「元本保証がされていること」が低く、「少額でも出し入れ自由」が高い。

年収別では、「元本が保証されていること」はいずれの層でも最も高いが、1000万円以上の層では39.0%と低く、代わりに「利回り」が29.3%と高い。「利回り」は年収が高い層ほど高くなる。“300万円未満”の層以外は「少額でも出し入れ自由」を上回り優先度第2位となっている。

地域別では、「少額でも出し入れ自由」は阪神圏の方が首都圏よりやや高い。

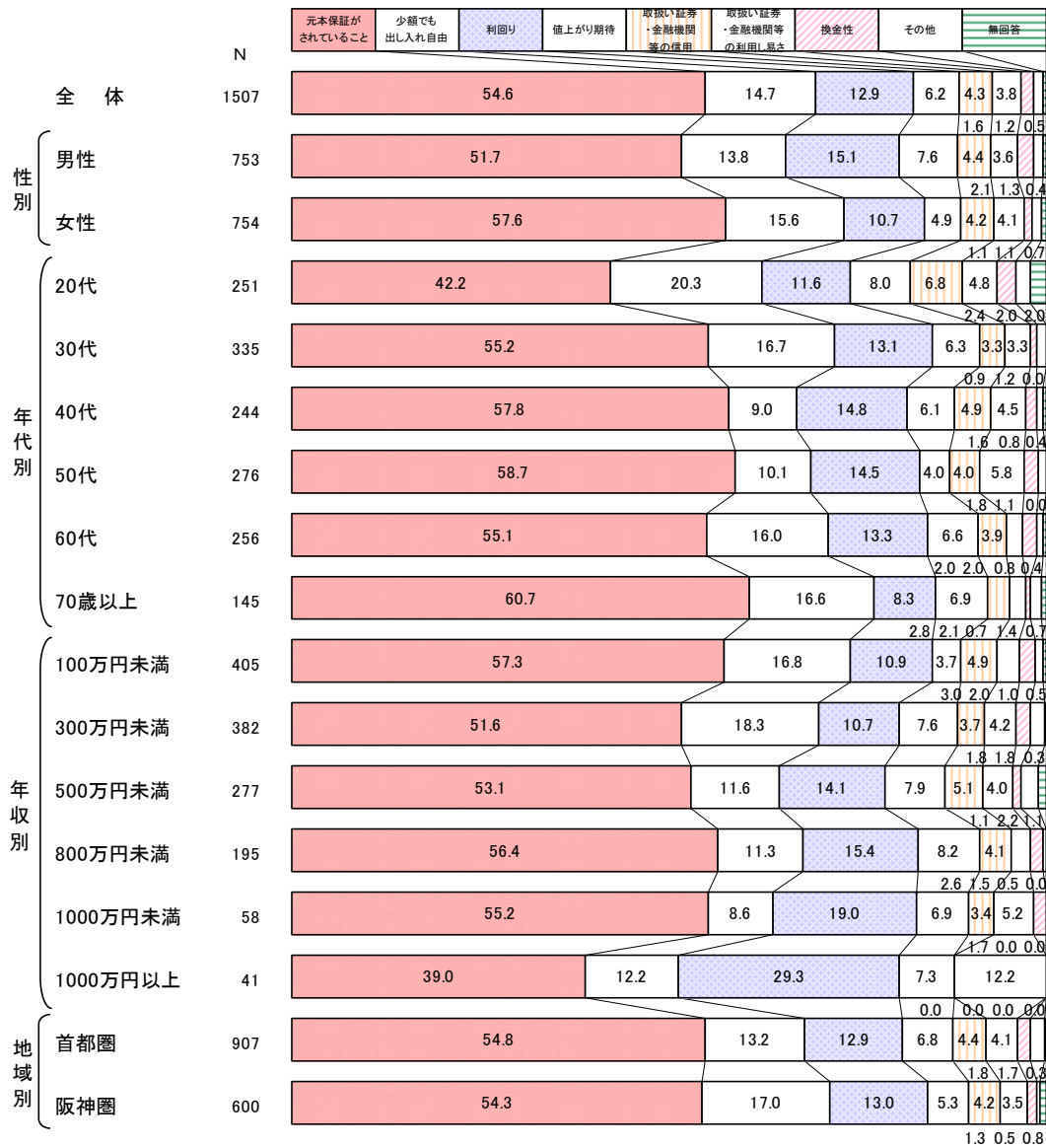
投資信託保有状況別でみると、現在保有層や保有経験層など投資信託への関与・意向が高い層では他の層に比べて「元本保証がされていること」が低く、「利回り」や「値上がり期待」が比較的高くなっている。「利回り」は保有未経験・購入意向層でも23.1%と高いが、非購入意向または非認知層では9.8%と10%に満たず低い。一方、「少額でも出し入れ自由」は非購入意向または非認知層で最も高く、投資信託への関与度が高いほど優先度が下がる傾向がみられる。

投資信託保有種類別については、N数(サンプル数)が少ない層があるため参考データとなるが、「元本保証がされていること」は公社債投資信託のみ保有層では70.0%と高い。

【貯蓄の運用方針(単数回答)／時系列】

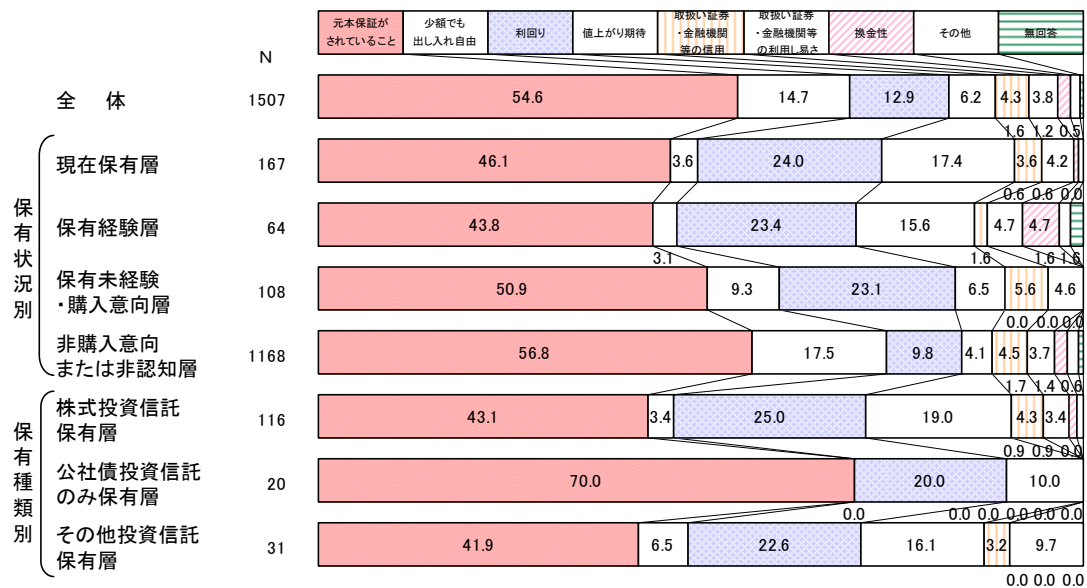
	N	元本保証が されていること	少額でも 出し入れ自由	利回り	値上がり期待	取扱い証券 ・金融機関 等の債権	取扱い証券 ・金融機関等 の利息・股息	換金性	その他	無回答		
		平成20年	1507	54.6				14.7	12.9	6.2	4.3	3.8
平成19年	1517	52.1				17.5	14.4	6.1	4.2	0.5		
									2.8	1.1	1.1	0.7

【貯蓄の運用方針(単数回答)／対象者属性別】



【貯蓄の運用方針(単数回答)／保有状況・保有種類別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



(2) 現在保有している金融商品と今後の貯蓄に適した金融商品

① 現在保有している金融商品

現在保有している金融商品は、「普通預貯金」が85.5%で最も高い。次いで、「ゆうちょ銀行の定額貯金」が46.2%、「定期預金」が39.1%で続く。さらに「貯蓄型保険」(15.3%)、「株式」(14.1%)、「国内の投資信託」(10.2%)の3つが保有率10%台であるが、これら以外の保有率は10%未満にとどまっている。

前回調査と比べても大きな変化はみられない。

対象者属性別にみると、性別では、「ゆうちょ銀行の定額貯金」保有率は男性より女性が高く、「定期預金」「貯蓄型保険」も女性の方がやや高いが、「株式」保有率は男性の方が高い。

年代別では「ゆうちょ銀行の定額預金」「定期貯金」「国内の投資信託」の保有率は年代が上がるにつれ高くなり、60代で最も高い。特に20代では「普通預貯金」以外の金融商品では他の年代に比べて保有率がかなり低く、「普通預貯金」が中心となっている。「財形貯蓄」は30～40代の保有率が比較的高い。

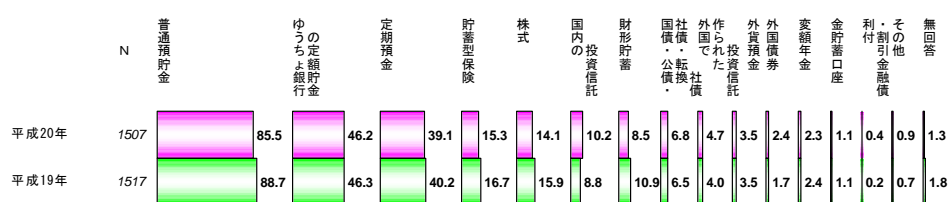
年収別にみると、「定期預金」「株式」「財形貯蓄」では年収が高いほど保有率が高くなる傾向がみられる。特に1000万円以上の層では「国内の投資信託」「外国で作られた投資信託」「外貨貯金」などの保有率も比較的高い。

地域別では、大きな差はみられない。

投資信託保有状況別にみると、現在保有層の預貯金以外の保有金融商品は、「国内の投資信託」が91.6%、「外国で作られた投資信託」が42.5%となっており、他にも「株式」(38.9%)、「国債・公債・社債・転換社債」(28.1%)などの保有率も高く、種類が多岐に渡っている。保有経験層では、預貯金の他は「株式」(31.3%)「貯蓄型保険」「国債・公債・社債・転換」(それぞれ17.2%)、保有未経験・購入意向層では「貯蓄型保険」(29.6%)、「財形貯蓄」(17.6%)などが他の層に比べて高い。非購入意向または非認知層は、主に預貯金を中心となっている。

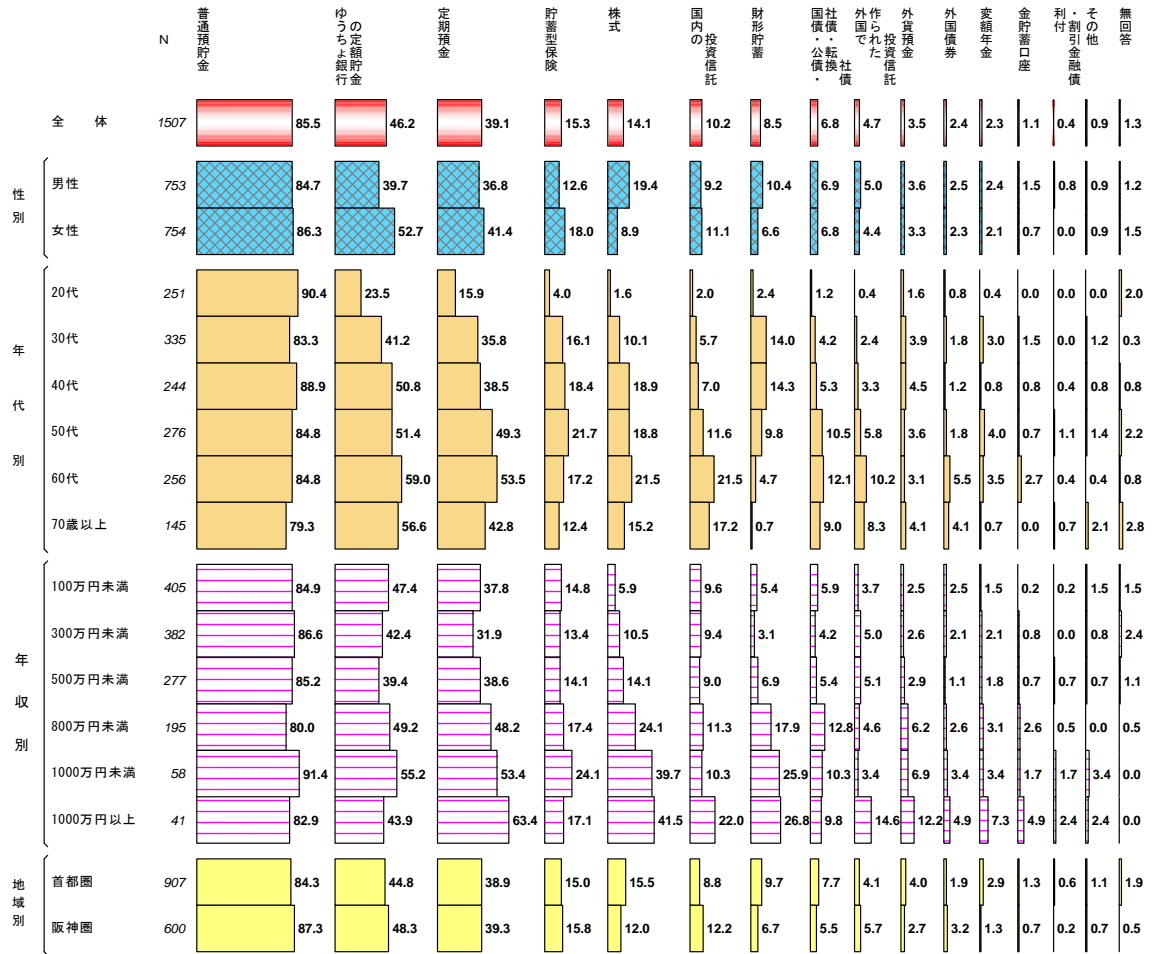
投資信託保有種類別では、株式投資信託保有層は他の層に比べ「株式」の保有率が高い。また、その他投資信託保有層は他の層に比べ「外国で作られた投資信託」保有率が高く、「国内の投資信託」保有率を上回っている。

【現在保有している金融商品(重複回答)／時系列】



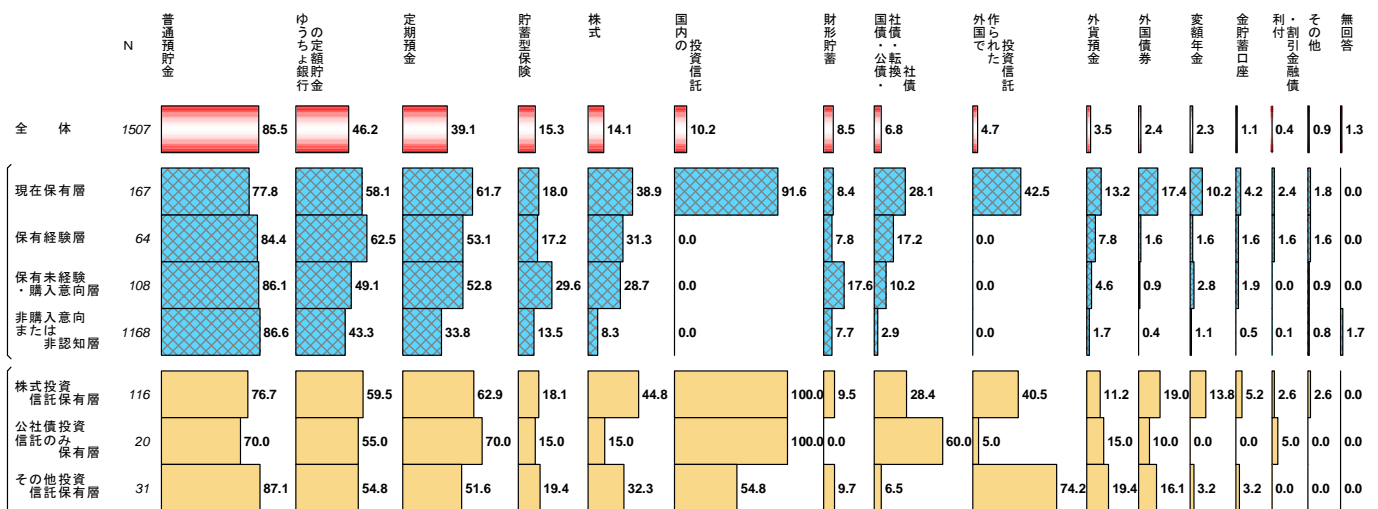
※ゆうちょ銀行は前回までは郵便局で設定

【現在保有している金融商品(重複回答)／対象者属性別】



【現在保有している金融商品(重複回答)／保有状況・保有種類別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



②保有貯蓄総額

現在の保有貯蓄総額については、「100万円未満」が31.1%、「100万円～300万円未満」が20.7%であり、「300万円未満」が51.8%と半数を超える。一方、「1000万円以上」は10.5%に過ぎない。平均保有貯蓄額は471.3万円となっている。

前回調査と比べても、大きな変化はみられない。

対象者属性別にみると、性別では、「1000万円以上」の比率が男性の方が高く、平均保有貯蓄額も男性(533.3万円)が女性(408.9万円)を上回っている。

年代別では、年代が上がるに従って平均保有貯蓄額も上がる傾向がみられ、20代は平均109.6万円と低い、60代では859.0万円と最高になる。各年代間の差をみると、40代から50代の間では約300万円増加しており、上昇幅が特に大きい。

年収別では、当然のことながら年収が高くなるほど平均保有貯蓄額は高く、年収1000万円以上の層では、1000万円を超えている。

地域別では、首都圏に比べ阪神圏で平均貯蓄額がやや高い。

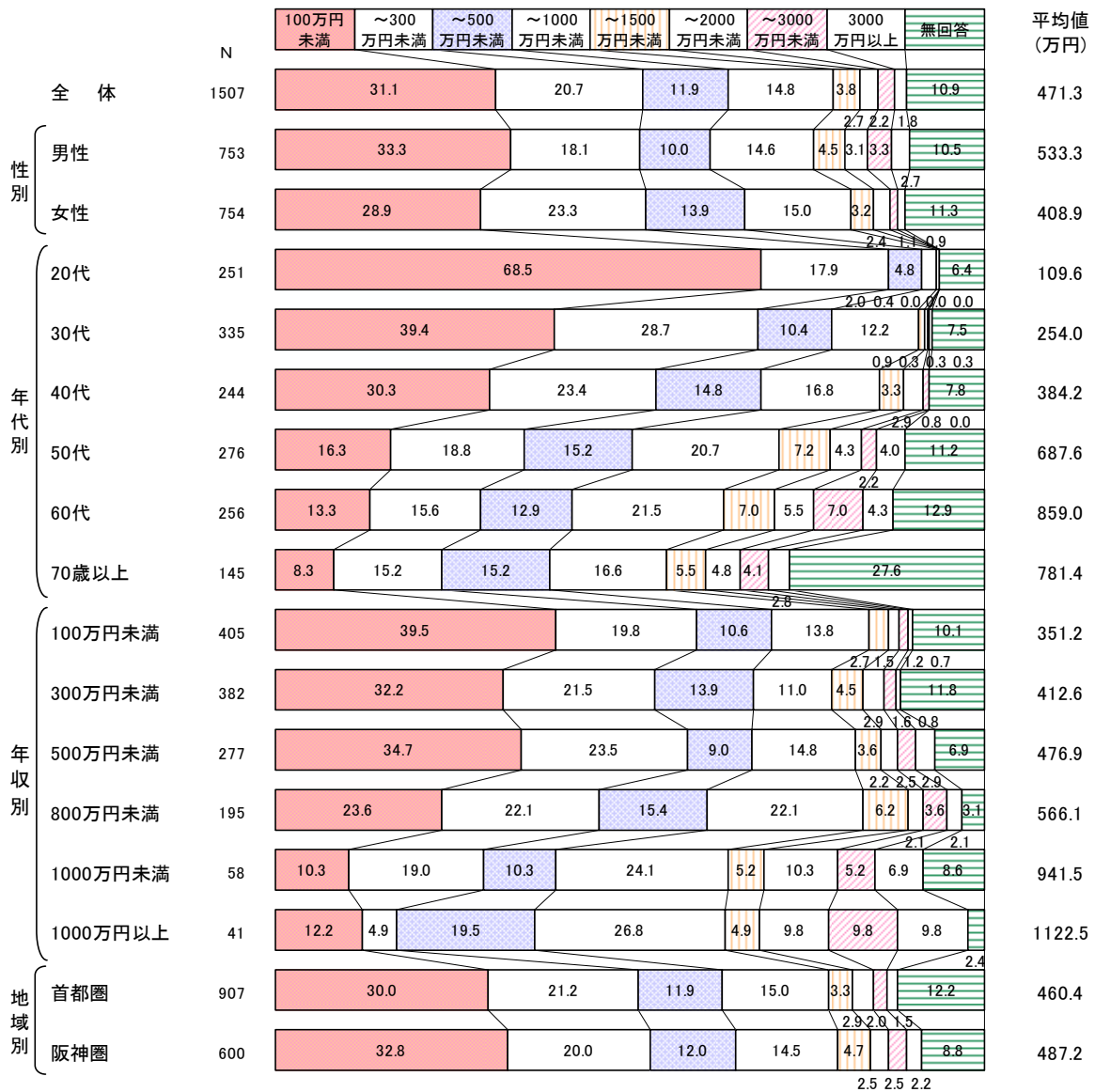
投資信託保有状況別でみると、現在保有層は「1000万円以上」の比率が34.8%と高く、平均保有貯蓄額は1000万円を超え特に高い。保有経験層と保有未経験・購入意向層は平均保有貯蓄額がともに500万円台だが、非購入意向または非認知層では361.6万円と他の層に比べて低い。

投資信託保有種類別では、株式投資信託保有層では「500万円～1000万円未満」、その他投資信託保有層では「100万円～300万円未満」がやや多くなっているが、平均保有貯蓄額ではさほど差はみられない。

【保有貯蓄総額(単数回答)／時系列】

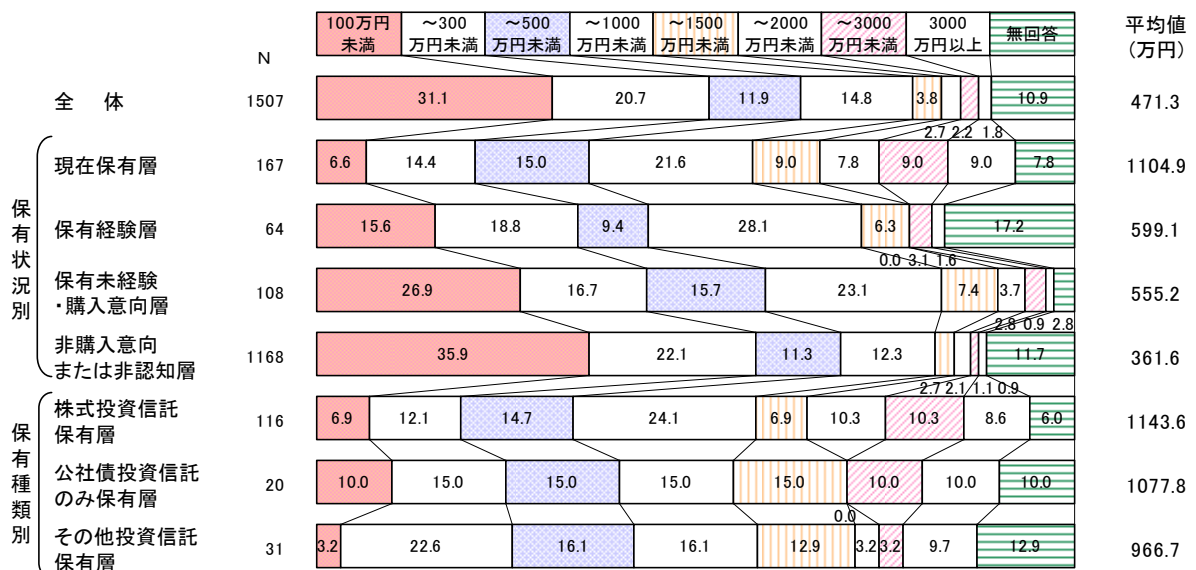
	N	100万円未満	～300万円未満	～500万円未満	～1000万円未満	～1500万円未満	～2000万円未満	～3000万円未満	3000万円以上	無回答	平均値(万円)
平成20年	1507	31.1			20.7		11.9	14.8	3.8	10.9	471.3
平成19年	1517	32.5			20.6		12.2	13.6	4.8	9.0	475.6
									2.7 2.2 1.8	2.2 1.6	

【保有貯蓄総額(単数回答)／対象者属性別】



【保有貯蓄総額(単数回答)／保有状況・保有種類別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



③今後の貯蓄に適した金融商品

今後の貯蓄に適した金融商品は、「ゆうちょ銀行の定額貯金」(49.8%)と「定期預金」(49.2%)がほぼ同率で特に高い。第3位は「株式」で、12.1%となっている。なお、「国内の投資信託」は6.0%、「外国で作られた投資信託」は3.0%となっている。

前回調査と比べても、大きな変化はみられない。

対象者属性別にみると、性別では、保有率と同様に「ゆうちょ銀行の定額貯金」や「定期預金」は女性の方が高いが、「株式」は男性の方が高い。

年代別では、「ゆうちょ銀行の定額貯金」は60代で高く、「定期預金」は20代や70歳以上では低い。「財形貯蓄」は30～50代で、「国債・公債・社債・転換社債」は50～60代で比較的高い。「国内の投資信託」は年代が上がるにつれてに少しずつ高まる傾向がみられ、70歳以上では11.7%となっている。

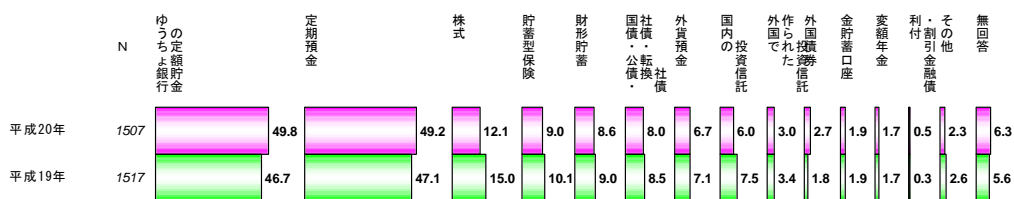
年収別では、「ゆうちょ銀行の定額貯金」は“500万円未満”では50%前後だが、“500万円以上”では30%台とやや低い。「株式」や「国内の投資信託」は年収が高くなるほど比率が高まる傾向がみられ、1000万円以上の層では「株式」は39.0%、「国内の投資信託」や「国債・公債・社債・転換社債」は20%強が今後の貯蓄対象として挙げている。

地域別にみると、「ゆうちょ銀行の定額貯金」は首都圏より阪神圏の方が高いが、「株式」は首都圏の方が高い。

投資信託保有状況別でみると、現在保有層は「国内の投資信託」「外国で作られた投資信託」が他の層に比べ高い。現在保有層や保有経験層、保有未経験・購入意向層では、「ゆうちょ銀行の定額貯金」よりも「定期預金」の方が高く、「株式」や「国債・公債・社債・転換社債」も比較的高い。保有未経験・購入意向層ではこの他にも「貯蓄型保険」「財形貯蓄」などがやや高く、貯蓄対象として考えている金融商品の種類が多いが、非購入意向または非認知層では、「ゆうちょ銀行の定額貯金」と「定期預金」が中心となっている。

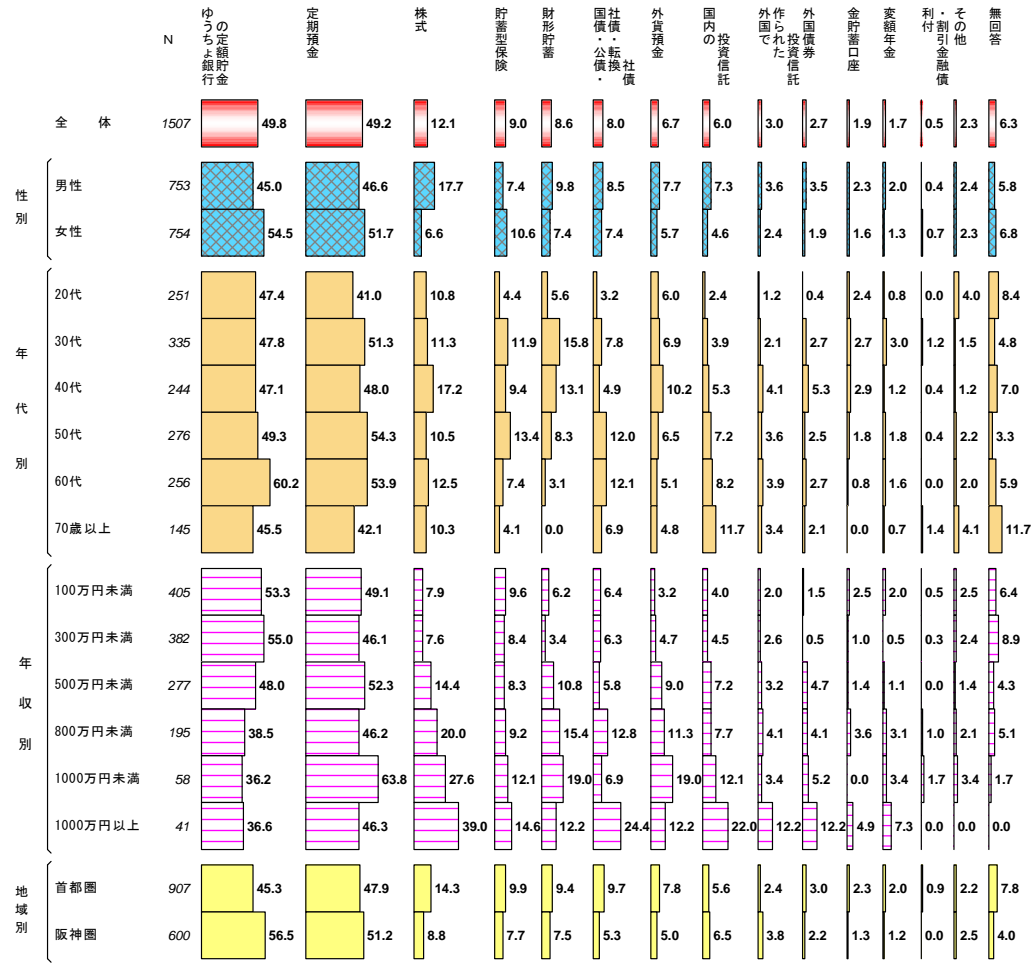
投資信託保有種類別では、「外国で作られた投資信託」と「外貨預金」はその他投資信託保有層でやや高い。

【今後の貯蓄に適した金融商品(重複回答)／時系列】



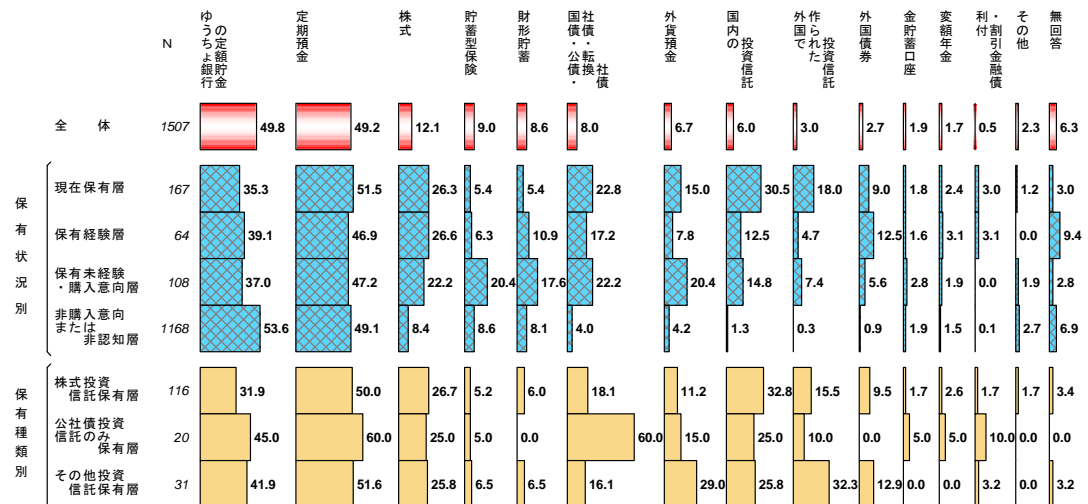
※「ゆうちょ銀行の定額貯金」は前回まで「郵便局の定額貯金」で設定

【今後の貯蓄に適した金融商品(重複回答)／対象者属性別】



【今後の貯蓄に適した金融商品(重複回答)／保有状況・保有種類別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



(3) 希望する投資信託商品と購入方法(投資信託関心者)

① 今後購入を考える投資信託の商品

今後の貯蓄に適していると考えられる金融商品について、「国内の投資信託」または「外国で作られた投資信託」を選んだ人に対し、今後新規投資または追加投資(増額)を考える場合の投資信託の商品内容について尋ねたところ、「安定重視型」が77.6%で高く、「利回り追求型」は8.4%、「値上がり益追求型」が12.1%であり、「積極値上がり追求型」は1.9%のみであった。

前回調査と比べると、「安定重視型」が13.3ポイント上昇し、「利回り追求型」が14.0ポイント低下している。

対象者属性別にみると、性別では、大きな差はみられない。

【今後購入を考える投資信託の商品内容(単数回答) / 時系列 - 投資信託関心者ベース】

N		安定重視型	利回り追求型	値上がり益追求型	積極値上がり益追求型
平成20年	107	77.6	8.4	12.1	1.9
平成19年	143	64.3	22.4	11.9	1.4

【今後購入を考える投資信託の商品内容(単数回答)

／対象者属性別－投資信託関心者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

		N	安定重視型	利回り追求型	値上がり益 追求型	積極値上がり益 追求型
性別	全体	107	77.6		8.4	12.1
	男性	64	76.6		7.8	14.1
	女性	43	79.1		9.3	9.3
地域別	首都圏	60	75.0		8.3	13.3
	阪神圏	47	80.9		8.5	10.6

(上段:N)(下段:%)

		全体	安定重視型	利回り追求型	値上がり益 追求型	積極値上がり 益追求型
年代別	20代	7	7	-	-	-
		100.0	100.0	-	-	-
	30代	15	9	1	4	1
		100.0	60.0	6.7	26.7	6.7
	40代	17	11	3	2	1
		100.0	64.7	17.6	11.8	5.9
	50代	24	20	2	2	-
	100.0	83.3	8.3	8.3	-	
年収別	60代	24	20	2	2	-
		100.0	83.3	8.3	8.3	-
	70歳以上	20	16	1	3	-
		100.0	80.0	5.0	15.0	-
	100万円未満	21	19	2	-	-
		100.0	90.5	9.5	-	-
	300万円未満	19	16	1	2	-
	100.0	84.2	5.3	10.5	-	
保有状況別	500万円未満	25	22	1	1	1
		100.0	88.0	4.0	4.0	4.0
	800万円未満	17	11	-	5	1
		100.0	64.7	-	29.4	5.9
	1000万円未満	8	4	-	4	-
		100.0	50.0	-	50.0	-
保有種類別	1000万円以上	10	5	4	1	-
		100.0	50.0	40.0	10.0	-
	株式投資信託 保有層	43	35	3	5	-
		100.0	81.4	7.0	11.6	-
	公社債投資信託 のみ保有層	6	5	-	1	-
	100.0	83.3	-	16.7	-	
その他投資信託 保有層	12	7	4	1	-	
	100.0	58.3	33.3	8.3	-	

【今後購入を考える投資信託の商品内容(単数回答)

／保有状況・保有種類別－投資信託関心者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

(上段:N)(下段:%)

		全体	安定重視型	利回り追求型	値上がり益 追求型	積極値上がり 益追求型
全体		107	83	9	13	2
		100.0	77.6	8.4	12.1	1.9
保有状況別	現在保有層	61	47	7	7	-
		100.0	77.0	11.5	11.5	-
	保有経験層	10	7	-	3	-
		100.0	70.0	-	30.0	-
	保有未経験 ・購入意向層	20	15	2	1	2
	100.0	75.0	10.0	5.0	10.0	
保有種類別	非購入意向または 非認知層	16	14	-	2	-
		100.0	87.5	-	12.5	-
	株式投資信託 保有層	43	35	3	5	-
		100.0	81.4	7.0	11.6	-
	公社債投資信託 のみ保有層	6	5	-	1	-
	100.0	83.3	-	16.7	-	
その他投資信託 保有層	12	7	4	1	-	
	100.0	58.3	33.3	8.3	-	

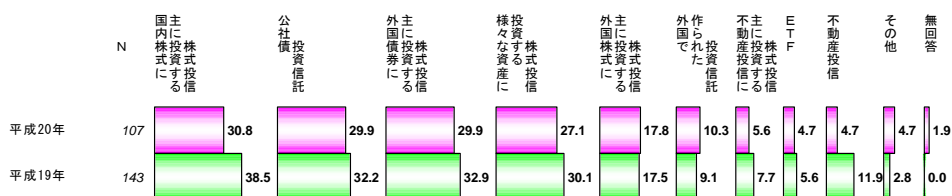
②投資信託の購入意向商品(投資信託関心者)

今後の貯蓄に適していると考ええる金融商品について「国内の投資信託」または「外国で作られた投資信託」を選んだ人に対して、今後新規投資または追加投資(増額)を考える場合の購入商品を尋ねたところ、「国内株式に主に投資する株式投資信託」(30.8%)、「公社債投資信託」「外国債券に主に投資する株式投資信託」(ともに 29.9%)、「様々な資産に投資する株式投資信託」(27.1%)が僅差で並んでおり、これら4商品の購入意向が比較的高い。以下「外国株式に主に投資する株式投信」(17.8%)、「外国で作られた投資信託」(10.3%)が10%台で続く。

前回調査と比べると、「国内株式に主に投資する株式投資信託」と「不動産投資信託」が低下している。

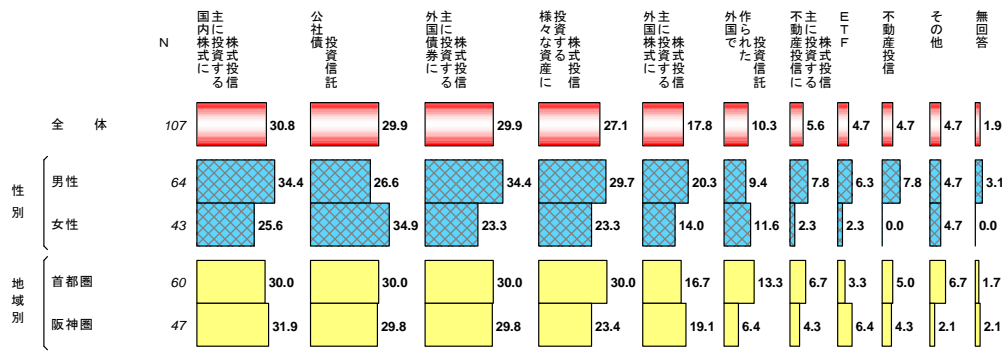
対象者属性別で見ると、性別では、ほとんどの項目で男性の方が購入意向が高いが、「公社債投資信託」は女性の方が高い。

【投資信託の購入意向商品(重複回答)／時系列－投資信託関心者ベース



【投資信託の購入意向商品(重複回答)／対象者属性別ー投資信託関心者ベース

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



(上段:N)(下段:96)

	全体	国内株式に主に投資する株式投資	公社債投資信託	外国債券に主に投資する株式投資	様々な資産に投資する株式投資	外国株式に主に投資する株式投資	外国で作られた投資信託	不動産投資に主に投資する株式投資	ETF	不動産投資	その他	無回答
年代別	20代	7	1	1	2	2	-	1	1	2	-	-
	100.0	14.3	14.3	28.6	28.6	28.6	-	14.3	14.3	28.6	-	-
	30代	15	3	3	5	4	5	4	1	1	1	1
	100.0	20.0	20.0	33.3	26.7	33.3	26.7	6.7	6.7	6.7	6.7	-
	40代	17	3	6	8	5	4	1	1	-	1	1
	100.0	17.6	35.3	47.1	29.4	23.5	5.9	5.9	-	-	5.9	-
	50代	24	8	6	6	6	2	5	-	1	1	1
100.0	33.3	25.0	25.0	25.0	8.3	20.8	-	4.2	4.2	4.2	4.2	
60代	24	8	8	6	7	3	1	1	2	1	2	-
100.0	33.3	33.3	25.0	29.2	12.5	4.2	4.2	8.3	4.2	8.3	-	
70歳以上	20	10	8	5	5	3	-	2	-	-	-	1
100.0	50.0	40.0	25.0	25.0	15.0	-	10.0	-	-	-	-	5.0
年収別	100万円未満	21	6	6	4	5	1	2	-	-	-	-
	100.0	28.6	28.6	19.0	23.8	4.8	9.5	-	-	-	-	-
	300万円未満	19	5	5	2	8	1	3	1	-	1	2
	100.0	26.3	26.3	10.5	42.1	5.3	15.8	5.3	-	5.3	10.5	-
	500万円未満	25	9	6	10	7	7	1	1	3	2	2
	100.0	36.0	24.0	40.0	28.0	28.0	4.0	4.0	12.0	8.0	8.0	8.0
800万円未満	17	7	7	5	2	4	2	1	1	-	1	
100.0	41.2	41.2	29.4	11.8	23.5	11.8	5.9	5.9	-	5.9	-	
1000万円未満	8	1	3	3	2	1	1	3	-	2	-	
100.0	12.5	37.5	37.5	25.0	12.5	12.5	37.5	-	25.0	-	-	
1000万円以上	10	3	1	5	4	3	2	-	1	-	-	
100.0	30.0	10.0	50.0	40.0	30.0	20.0	-	10.0	-	-	-	

【投資信託の購入意向商品(重複回答)／保有状況・保有種類別ー投資信託関心者ベース

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

(上段:N)(下段:96)

	全体	国内株式に主に投資する株式投資	公社債投資信託	外国債券に主に投資する株式投資	様々な資産に投資する株式投資	外国株式に主に投資する株式投資	外国で作られた投資信託	不動産投資に主に投資する株式投資	ETF	不動産投資	その他	無回答
全体	107	33	32	32	29	19	11	6	5	5	5	2
100.0	30.8	29.9	29.9	27.1	17.8	10.3	5.6	4.7	4.7	4.7	1.9	
保有状況別	現在保有層	61	18	17	21	18	12	6	3	2	1	1
	100.0	29.5	27.9	34.4	29.5	19.7	9.8	4.9	3.3	1.6	1.6	1.6
	保有経験層	10	3	3	3	4	1	1	2	-	1	1
	100.0	30.0	30.0	30.0	40.0	10.0	10.0	20.0	-	10.0	10.0	-
	保有未経験・購入意向または非認知層	20	4	6	6	5	5	3	1	2	1	2
100.0	20.0	30.0	30.0	25.0	25.0	15.0	5.0	10.0	5.0	10.0	-	
保有種類別	株式投資信託保有層	43	15	12	16	17	8	1	2	-	1	1
	100.0	34.9	27.9	37.2	39.5	18.8	2.3	4.7	-	2.3	-	2.3
	公社債投資信託のみ保有層	6	1	3	2	1	1	1	1	-	1	-
	100.0	16.7	50.0	33.3	16.7	16.7	16.7	16.7	-	-	16.7	-
その他投資信託保有層	12	2	2	3	-	3	4	-	2	-	-	
100.0	16.7	16.7	25.0	-	25.0	33.3	-	16.7	-	-	-	

③投資信託の情報取得に適した方法(投資信託関心者)

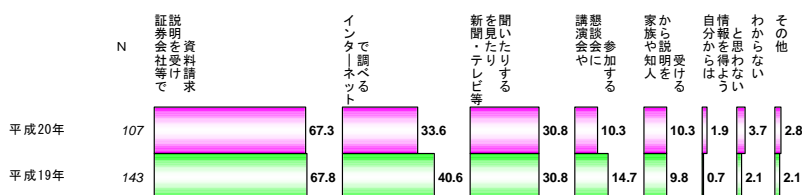
今後の貯蓄に適していると考えられる金融商品について、「国内の投資信託」または「外国で作られた投資信託」を選んだ人に対して、投資信託の情報取得に適した方法を尋ねたところ、「証券会社等で説明を受け資料請求」が67.3%で最も高い。次いで、「インターネットで調べる」(33.6%)と「新聞・テレビ等を見たり聞いたりする」(30.8%)の順となっている。

前回と比べると、「インターネットで調べる」の割合が下がっている。

対象者属性別にみると、性別では、「インターネットで調べる」「新聞・テレビ等を見たり聞いたりする」は男性で、「講演会や懇談会に参加する」「家族や知人から説明を受ける」は女性で高い。

地域別でみると、「証券会社等で説明を受け資料請求」は首都圏より阪神圏で高く、「インターネットで調べる」は首都圏の方がやや高い。

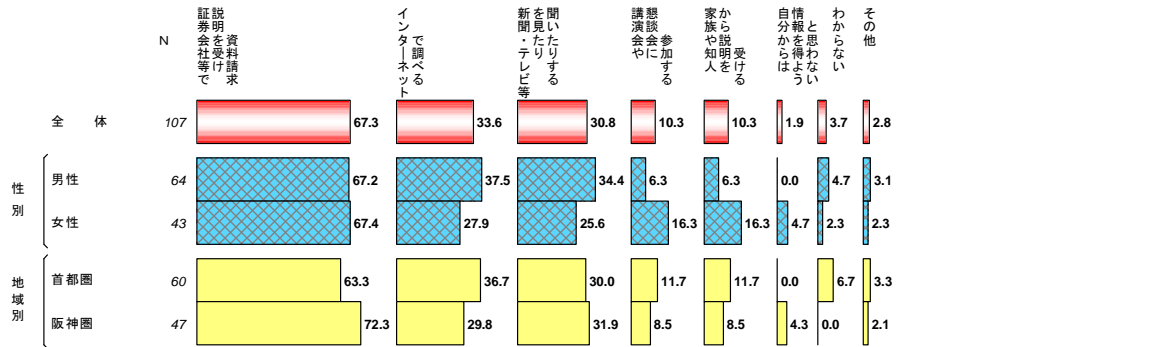
【投資信託の情報取得に適した方法(重複回答) /時系列—投資信託関心者ベース】



【投資信託の情報取得に適した方法(重複回答) / 対象者属性別

—投資信託関心者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



(上段:N)(下段:%)

	全体	証券会社等で説明を受け資料請求	インターネットで調べる	新聞・テレビ等を見たり聞いたりする	講演会や懇談会に参加する	家族や知人から説明を受ける	自分からは情報を得ようと思わない	わからない	その他
年代別									
20代	7	3	5	1	2	-	-	1	-
	100.0	42.9	71.4	14.3	28.6	-	-	14.3	-
30代	15	11	9	4	1	1	-	-	-
	100.0	73.3	60.0	26.7	6.7	6.7	-	-	-
40代	17	10	7	10	1	2	-	-	1
	100.0	58.8	41.2	58.8	5.9	11.8	-	-	5.9
50代	24	16	8	4	2	4	1	-	1
	100.0	66.7	33.3	16.7	8.3	16.7	4.2	-	4.2
60代	24	17	5	11	3	2	1	1	-
	100.0	70.8	20.8	45.8	12.5	8.3	4.2	4.2	-
70歳以上	20	15	2	3	2	2	-	2	1
	100.0	75.0	10.0	15.0	10.0	10.0	-	10.0	5.0
年収別									
100万円未満	21	14	6	6	2	5	1	1	-
	100.0	66.7	28.6	28.6	9.5	23.8	4.8	4.8	-
300万円未満	19	13	3	6	4	-	1	1	-
	100.0	68.4	15.8	31.6	21.1	-	5.3	5.3	-
500万円未満	25	19	8	8	1	3	-	1	1
	100.0	76.0	32.0	32.0	4.0	12.0	-	4.0	4.0
800万円未満	17	9	9	6	2	1	-	1	-
	100.0	52.9	52.9	35.3	11.8	5.9	-	5.9	-
1000万円未満	8	7	3	2	1	-	-	-	-
	100.0	87.5	37.5	25.0	12.5	-	-	-	-
1000万円以上	10	7	5	3	-	1	-	-	1
	100.0	70.0	50.0	30.0	-	10.0	-	-	10.0

【投資信託の情報取得に適した方法(重複回答)

／保有状況・保有種類別—投資信託関心者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

(上段:N)(下段:%)

	全体	証券会社等で説明を受け資料請求	インターネットで調べる	新聞・テレビ等を見たり聞いたりする	講演会や懇談会に参加する	家族や知人から説明を受ける	自分からは情報を得ようと思わない	わからない	その他
全体	107	72	36	33	11	11	2	4	3
	100.0	67.3	33.6	30.8	10.3	10.3	1.9	3.7	2.8
保有状況別									
現在保有層	61	45	16	18	8	8	1	-	-
	100.0	73.8	26.2	29.5	13.1	13.1	1.6	-	-
保有経験層	10	7	3	4	1	-	-	1	-
	100.0	70.0	30.0	40.0	10.0	-	-	10.0	-
保有未経験・購入意向層	20	13	11	6	2	-	-	1	2
	100.0	65.0	55.0	30.0	10.0	-	-	5.0	10.0
非購入意向または非認知層	16	7	6	5	-	3	1	2	1
	100.0	43.8	37.5	31.3	-	18.8	6.3	12.5	6.3
保有種類別									
株式投資信託保有層	43	31	10	13	8	4	1	-	-
	100.0	72.1	23.3	30.2	18.6	9.3	2.3	-	-
公社債投資信託のみ保有層	6	4	2	4	-	1	-	-	-
	100.0	66.7	33.3	66.7	-	16.7	-	-	-
その他投資信託保有層	12	10	4	1	-	3	-	-	-
	100.0	83.3	33.3	8.3	-	25.0	-	-	-

④投資信託の購入意向窓口(投資信託関心者)

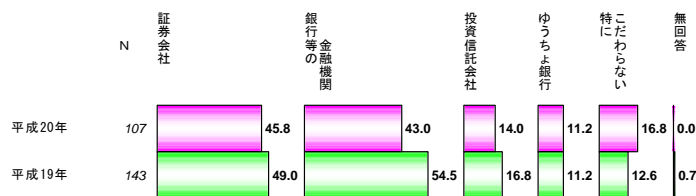
今後の貯蓄に適していると考える金融商品について、「国内の投資信託」または「外国で作られた投資信託」を選んだ人に対して、今後、新たに投資信託を購入する場合の購入先を尋ねたところ、「証券会社」(45.8%)と「銀行等の金融機関」(43.0%)がほぼ同率で高く、「投資信託会社」(14.0%)や「ゆうちょ銀行」(11.2%)を引き離している。「特にこだわらない」も16.8%みられる。

前回調査と比べると、「銀行等の金融機関」が低下している。

対象者属性別にみると、性別では「証券会社」は男性の方が高く、「銀行等の金融機関」は女性の方が高い。

地域別では、「証券会社」は首都圏の方が高く、「銀行等の金融機関」は阪神圏の方がやや高い。

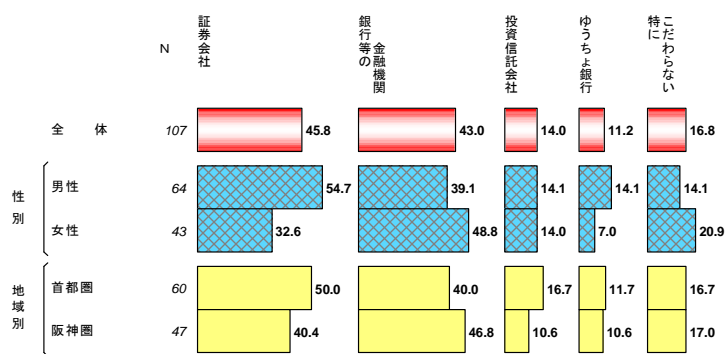
【投資信託の購入意向窓口(重複回答) / 時系列－投資信託関心者ベース】



※「ゆうちょ銀行」は前回まで「郵便局」で設定

【投資信託の購入意向窓口(重複回答) / 対象者属性別—投資信託関心者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



(上段:N)(下段:%)

	全体	証券会社	銀行等の金融機関	投資信託会社	ゆうちょ銀行	特にこだわらない
年代別						
20代	7	4	3	2	1	-
	100.0	57.1	42.9	28.6	14.3	-
30代	15	6	4	3	1	6
	100.0	40.0	26.7	20.0	6.7	40.0
40代	17	4	7	4	4	4
	100.0	23.5	41.2	23.5	23.5	23.5
50代	24	7	10	3	2	7
	100.0	29.2	41.7	12.5	8.3	29.2
60代	24	16	10	2	2	1
	100.0	66.7	41.7	8.3	8.3	4.2
70歳以上	20	12	12	1	2	-
	100.0	60.0	60.0	5.0	10.0	-
年収別						
100万円未満	21	6	11	2	2	3
	100.0	28.6	52.4	9.5	9.5	14.3
300万円未満	19	10	7	3	2	5
	100.0	52.6	36.8	15.8	10.5	26.3
500万円未満	25	12	12	-	4	2
	100.0	48.0	48.0	-	16.0	8.0
800万円未満	17	7	5	8	4	3
	100.0	41.2	29.4	47.1	23.5	17.6
1000万円未満	8	5	5	2	-	1
	100.0	62.5	62.5	25.0	-	12.5
1000万円以上	10	6	3	-	-	3
	100.0	60.0	30.0	-	-	30.0

【投資信託の購入意向窓口(重複回答) / 保有状況・保有種類別—投資信託関心者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

(上段:N)(下段:%)

	全体	証券会社	銀行等の金融機関	投資信託会社	ゆうちょ銀行	特にこだわらない
全体	107	49	46	15	12	18
	100.0	45.8	43.0	14.0	11.2	16.8
保有状況別						
現在保有層	61	32	28	9	6	6
	100.0	52.5	45.9	14.8	9.8	9.8
保有経験層	10	6	5	-	-	2
	100.0	60.0	50.0	-	-	20.0
保有未経験層	20	9	8	2	2	6
	100.0	45.0	40.0	10.0	10.0	30.0
非購入意向または非認知層	16	2	5	4	4	4
	100.0	12.5	31.3	25.0	25.0	25.0
保有種類別						
株式投資信託	43	21	23	7	5	4
	100.0	48.8	53.5	16.3	11.6	9.3
保有層	6	3	3	2	1	-
	100.0	50.0	50.0	33.3	16.7	-
公社債投資信託のみ保有層	12	8	2	-	-	2
	100.0	66.7	16.7	-	-	16.7

⑤投資信託の保有期間(投資信託関心者)

今後の貯蓄に適していると金融商品について、「国内の投資信託」または「外国で作られた投資信託」を選んだ人に対し、投資信託を購入する場合の保有期間を尋ねたところ、「3年以上5年未満」が28.0%を占め最も高く、次いで「5年以上」(15.0%)、「1年以上2年未満」「2年以上3年未満」(ともに12.1%)が同率で並んでいる。「特に期間は決めない」も27.1%と比較的高い。

前回調査と比べると、「2年以上3年未満」が低下し、「5年以上」が上昇している。

対象者属性別にみると、性別では、「1年以上2年未満」は男性の方が、「2年以上3年未満」「3年以上5年未満」では女性の方がやや高くなっている。

地域別では「2年以上3年未満」は首都圏で16.7%、阪神圏で6.4%と地域差がみられる。

【今後投資信託を購入する場合の希望保有期間(単数回答) /時系列

—投資信託関心者ベース】

	N	1年未満	1年以上 2年未満	2年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上	特に期間は 決めない
平成20年	107	5.6	12.1	12.1	28.0	15.0	27.1
平成19年	143	3.5	12.6	25.9	26.6	5.6	25.9

【今後投資信託を購入する場合の希望保有期間(単数回答)

／対象者属性別－投資信託関心者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

		N	1年未満	1年以上 2年未満	2年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上	特に期間は 決めない
性別	全体	107	5.6	12.1	12.1	28.0	15.0	27.1
	男性	64	4.7	14.1	9.4	25.0	17.2	29.7
	女性	43	7.0	9.3	16.3	32.6	11.6	23.3
地域別	首都圏	60	3.3	10.0	16.7	26.7	16.7	26.7
	阪神圏	47	8.5	14.9	6.4	29.8	12.8	27.7

(上段:N)(下段:%)

		全体	1年未満	1年以上 2年未満	2年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上	特に期間は 決めない
年代別	20代	7	-	1	1	-	2	3
		100.0	-	14.3	14.3	-	28.6	42.9
	30代	15	2	-	2	3	4	4
		100.0	13.3	-	13.3	20.0	26.7	26.7
	40代	17	1	1	2	3	5	5
		100.0	5.9	5.9	11.8	17.6	29.4	29.4
	50代	24	2	1	1	8	2	10
	100.0	8.3	4.2	4.2	33.3	8.3	41.7	
年収別	60代	24	-	4	2	10	3	5
		100.0	-	16.7	8.3	41.7	12.5	20.8
	70歳以上	20	1	6	5	6	-	2
		100.0	5.0	30.0	25.0	30.0	-	10.0
	100万円未満	21	2	2	3	5	4	5
		100.0	9.5	9.5	14.3	23.8	19.0	23.8
	300万円未満	19	-	1	2	5	3	8
	100.0	-	5.3	10.5	26.3	15.8	42.1	
500万円未満	25	2	4	3	6	3	7	
		100.0	8.0	16.0	12.0	24.0	12.0	28.0
	800万円未満	17	1	2	2	3	5	4
		100.0	5.9	11.8	11.8	17.6	29.4	23.5
	1000万円未満	8	-	1	3	2	-	2
		100.0	-	12.5	37.5	25.0	-	25.0
1000万円以上	10	1	1	-	5	1	2	
	100.0	10.0	10.0	-	50.0	10.0	20.0	

【今後投資信託を購入する場合の希望保有期間(単数回答)

／保有状況・保有種類別－投資信託関心者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

(上段:N)(下段:%)

		全体	1年未満	1年以上 2年未満	2年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上	特に期間は 決めない
全体		107	6	13	13	30	16	29
		100.0	5.6	12.1	12.1	28.0	15.0	27.1
保有状況別	現在保有層	61	2	6	7	23	7	16
		100.0	3.3	9.8	11.5	37.7	11.5	26.2
	保有経験層	10	1	1	2	1	1	4
		100.0	10.0	10.0	20.0	10.0	10.0	40.0
	保有未経験 ・購入意向層	20	1	2	3	5	4	5
	100.0	5.0	10.0	15.0	25.0	20.0	25.0	
保有種類別	非購入意向または 非認知層	16	2	4	1	1	4	4
		100.0	12.5	25.0	6.3	6.3	25.0	25.0
	株式投資信託 保有層	43	2	2	4	18	6	11
		100.0	4.7	4.7	9.3	41.9	14.0	25.6
公社債投資信託 のみ保有層	6	-	2	-	2	1	1	
		100.0	-	33.3	-	33.3	16.7	16.7
	その他投資信託 保有層	12	-	2	3	3	-	4
	100.0	-	16.7	25.0	25.0	-	33.3	

8. インターネットによる金融取引状況(全体)

(1) インターネットによる金融取引経験

インターネットによる金融取引経験については、「ある」が11.4%、「利用経験はないが今後行いたい」が8.1%となっている。

前回調査と比べても、大きな差はみられない。

対象者属性別にみると、性別では、「利用経験なく今後も利用意向なし」率は男性より女性の方が高い。

年代別では、「ある」は30～40代では約15%前後と高く、「利用経験はないが今後行いたい」も40代以下では10%ほどみられるが、いずれも50代以上では年代が上がるほど下がり、70歳以上では特に低い。

年収別でみると、「ある」は“500万円未満”の層では10%未満であるが、それ以上では年収が高くなるにつれ高まり、“800万円以上”の層では30%を超える。「利用経験はないが今後行いたい」の年収差は「ある」に比べると小さいが、1000万円以上の層では22.0%と高い。

地域別では、「利用経験なく今後も利用意向なし」は首都圏より阪神圏の方が高い。

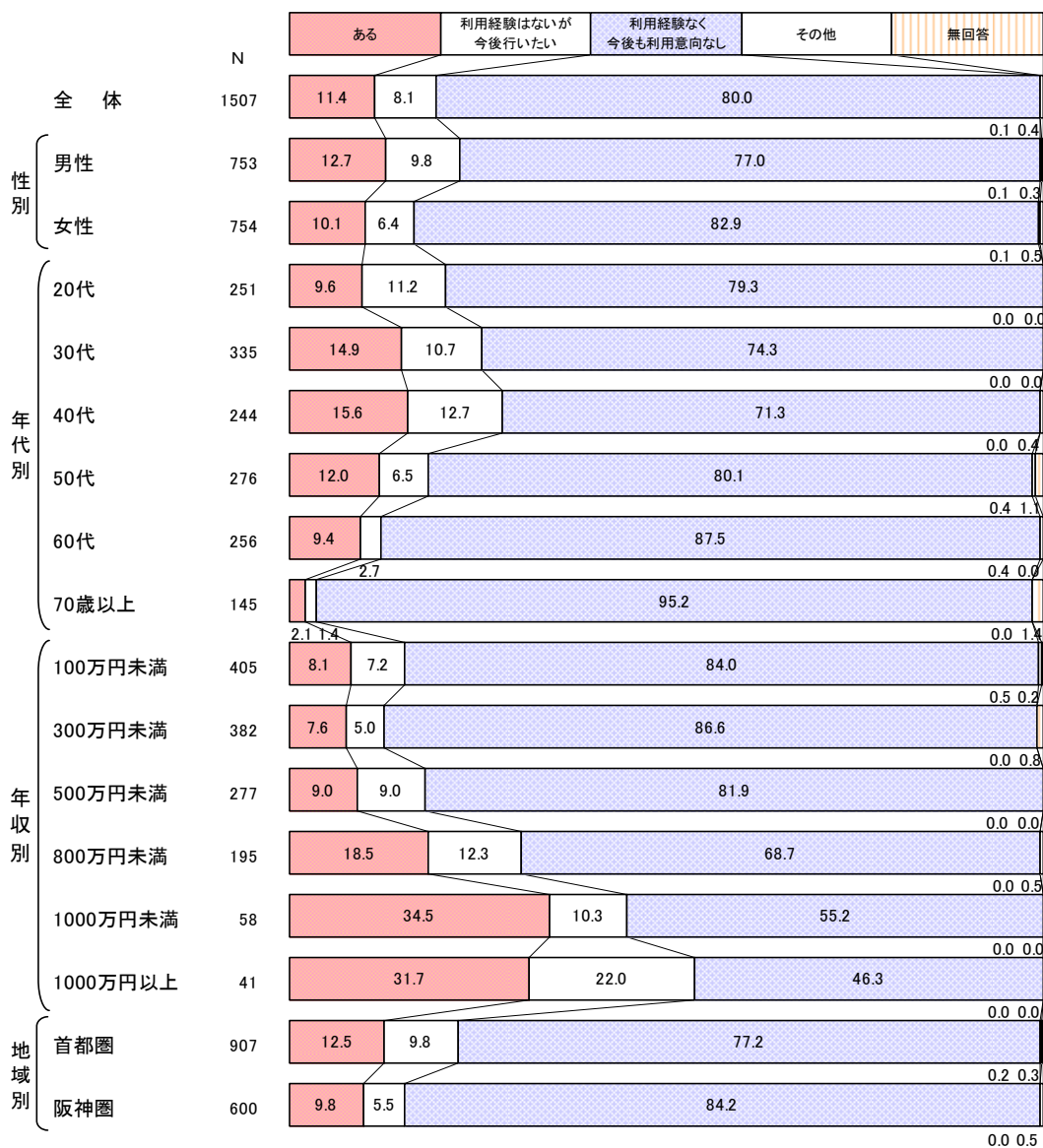
投資信託保有状況別にみると、「ある」は現在保有層、保有経験層、保有未経験・購入意向層では20%台であるが、非購入意向または非認知層では8.3%と低い。「利用経験はないが今後行いたい」は保有未経験・購入意向層で23.1%と他の層より高い。

投資信託種類別では、「ある」は株式投資信託保有層で高く、「利用経験はなく今後も利用意向なし」はその他投資信託保有層でやや高い。

【インターネットによる金融取引経験(単数回答)／時系列】

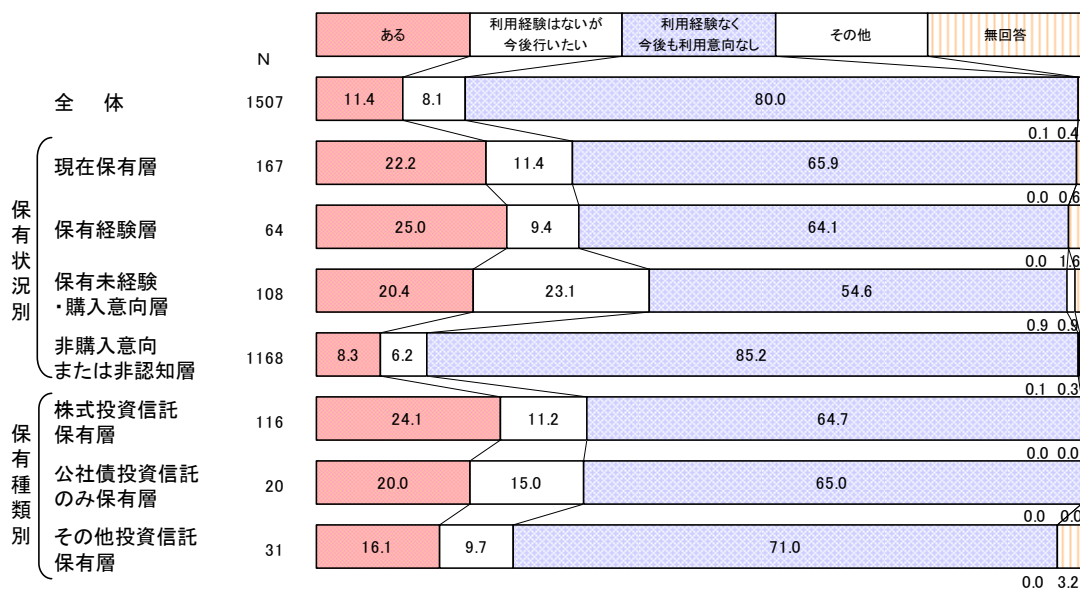
	N	ある	利用経験はないが 今後行いたい	利用経験なく 今後も利用意向なし	その他	無回答
平成20年	1507	11.4	8.1	80.0		0.1
平成19年	1517	11.0	8.9	79.4		0.4
						0.4 0.3

【インターネットによる金融取引経験(単数回答)／対象者属性別】



【インターネットによる金融取引経験(単数回答)／保有状況・保有種類別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要



(2) インターネットによる取引経験のある金融商品(インターネット取引経験者)

インターネットによる金融取引経験がある人に対し、インターネットで取引を行ったことがある金融商品について尋ねたところ、「普通預貯金」が54.1%で最も高く、「株式・国債・公債・社債・転換社債」が42.4%、「損保・生保」が29.7%、「定期預金・外貨預金」が20.3%の順となっている。「投資信託」は5.8%のみであった。

前回調査と比べると、「普通預貯金」のインターネット利用率はやや低下したが、「株式・国債・公債・社債・転換社債」や「損保・生保」「定期預金・外貨預金」は上昇している。

対象者属性別にみると、性別では、女性は男性に比べて「普通預貯金」が高く、他の商品を大きく上回っているが、男性は「株式・国債・公債・社債・転換社債」が女性より高く、インターネット利用率が最も高い商品となっている。

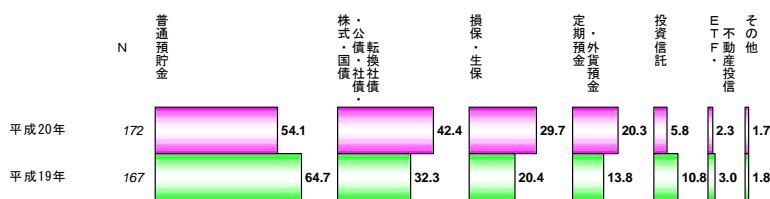
年代別では、「普通預金」は年代が下がるほど高い傾向がみられ、「株式・国債・公債・社債・転換社債」は50代で60.6%と高い。

地域別では、「株式・国債・公債・社債・転換社債」は首都圏の方が高く、「定期預金・外貨預金」は阪神圏の方がやや高い。

投資信託保有状況別にみると、「普通預貯金」は現在保有層で低く、非購入意向または非認知層で高い。一方「株式・国債・公債・社債・転換社債」は現在保有層で高く、非購入意向または非認知層で低くなっている。

【インターネット取引経験のある金融商品(重複回答)

／時系列ーインターネット取引経験者ベース】



【インターネット取引経験のある金融商品(重複回答)】

／対象者属性別ーインターネット取引経験者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

(上段:N)(下段:%)

		全 体	普通預貯金	株式・国債 ・公債・社債 ・転換社債	損保・生保	定期預金 ・外貨預金	投資信託	ETF ・不動産投信	その他
全 体		172 100.0	93 54.1	73 42.4	51 29.7	35 20.3	10 5.8	4 2.3	3 1.7
性別	男 性	96 100.0	46 47.9	55 57.3	31 32.3	20 20.8	6 6.3	4 4.2	-
	女 性	76 100.0	47 61.8	18 23.7	20 26.3	15 19.7	4 5.3	-	3 3.9
年代別	20代	24 100.0	20 83.3	5 20.8	5 20.8	4 16.7	-	-	-
	30代	50 100.0	30 60.0	15 30.0	23 46.0	12 24.0	3 6.0	-	1 2.0
	40代	38 100.0	20 52.6	13 34.2	12 31.6	11 28.9	3 7.9	1 2.6	1 2.6
	50代	33 100.0	16 48.5	20 60.6	7 21.2	7 21.2	2 6.1	1 3.0	1 3.0
	60代	24 100.0	7 29.2	17 70.8	3 12.5	1 4.2	2 8.3	1 4.2	-
	70歳以上	3 100.0	-	3 100.0	1 33.3	-	-	1 33.3	-
	年収別	100万円未満	33 100.0	19 57.6	11 33.3	7 21.2	3 9.1	1 3.0	-
	300万円未満	29 100.0	17 58.6	8 27.6	7 24.1	5 17.2	1 3.4	-	-
	500万円未満	25 100.0	12 48.0	14 56.0	9 36.0	7 28.0	1 4.0	1 4.0	1 4.0
	800万円未満	36 100.0	22 61.1	14 38.9	16 44.4	8 22.2	3 8.3	1 2.8	-
	1000万円未満	20 100.0	6 30.0	12 60.0	6 30.0	4 20.0	1 5.0	-	-
	1000万円以上	13 100.0	7 53.8	9 69.2	3 23.1	4 30.8	2 15.4	2 15.4	-
地域別	首都圏	113 100.0	61 54.0	52 46.0	33 29.2	21 18.6	6 5.3	2 1.8	1 0.9
	阪神圏	59 100.0	32 54.2	21 35.6	18 30.5	14 23.7	4 6.8	2 3.4	2 3.4

【インターネットによる取引経験のある金融商品(重複回答)】

／保有状況・保有種類別ーインターネット取引経験者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

(上段:N)(下段:%)

		全 体	普通預貯金	株式・国債 ・公債・社債 ・転換社債	損保・生保	定期預金 ・外貨預金	投資信託	ETF ・不動産投信	その他
全 体		172 100.0	93 54.1	73 42.4	51 29.7	35 20.3	10 5.8	4 2.3	3 1.7
保有状況別	現在保有層	37 100.0	13 35.1	23 62.2	10 27.0	9 24.3	8 21.6	4 10.8	-
	保有経験層	16 100.0	7 43.8	10 62.5	6 37.5	5 31.3	2 12.5	-	-
	保有未経験層	22 100.0	9 40.9	10 45.5	5 22.7	5 22.7	-	-	1 4.5
	非購入意向または 非認知層	97 100.0	64 66.0	30 30.9	30 30.9	16 16.5	-	-	2 2.1
	株式投資信託 保有層	28 100.0	9 32.1	18 64.3	7 25.0	7 25.0	7 25.0	3 10.7	-
保有種類別	公社債投資信託 のみ保有層	4 100.0	2 50.0	1 25.0	2 50.0	2 50.0	-	-	-
	その他投資信託 保有層	5 100.0	2 40.0	4 80.0	1 20.0	-	1 20.0	1 20.0	-

(3) インターネットによる取引意向のある金融商品(インターネット取引未経験者のうち取引意向者)

インターネットによる金融取引の経験はないが、今後の利用意向がある人に対し、インターネットで取引を行ってみたい金融商品を尋ねたところ、「普通預貯金」が56.6%で最も高く、「定期預金・外貨預金」(42.6%)「株式・国債・公債・社債・転換社債」(41.0%)が40%台で続いている。「損保・生保」は26.2%、「投資信託」は10.7%であった。

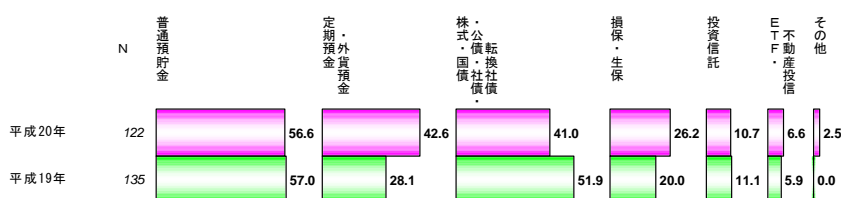
前回調査と比べると、インターネット取引利用意向率は「定期預金・外貨預金」では上昇したが、「株式・国債・公債・社債・転換社債」では低下している。

対象者属性別でみると、性別では、男性は女性に比べ「株式・国債・公債・社債・転換社債」「損保・生保」の利用意向率が高く、女性は男性に比べ「定期預金・外貨預金」が高い。

地域別では、「普通預貯金」「定期預金・外貨預金」は首都圏と比べ阪神圏の方が高く、「株式・国債・公債・社債・転換社債」は首都圏の方が高い。

【インターネットによる取引意向のある金融商品(重複回答)

／時系列－インターネット取引意向者ベース】



【インターネットによる取引意向のある金融商品(重複回答)】

／対象者属性別ーインターネット取引意向者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

(上段:N)(下段:%)

	全 体	普通預貯金	定期預金 ・外貨預金	株式・国債 ・公債・社債 ・転換社債	損保・生保	投資信託	ETF ・不動産投信	その他	
全 体	122 100.0	69 56.6	52 42.6	50 41.0	32 26.2	13 10.7	8 6.6	3 2.5	
性別	男 性	74 100.0	41 55.4	26 35.1	35 47.3	23 31.1	9 12.2	5 6.8	2 2.7
	女 性	48 100.0	28 58.3	26 54.2	15 31.3	9 18.8	4 8.3	3 6.3	1 2.1
年 代 別	20代	28 100.0	22 78.6	12 42.9	5 17.9	7 25.0	3 10.7	2 7.1	1 3.6
	30代	36 100.0	18 50.0	18 50.0	12 33.3	9 25.0	4 11.1	3 8.3	1 2.8
	40代	31 100.0	16 51.6	12 38.7	16 51.6	10 32.3	3 9.7	1 3.2	-
	50代	18 100.0	9 50.0	7 38.9	11 61.1	4 22.2	2 11.1	2 11.1	1 5.6
	60代	7 100.0	3 42.9	3 42.9	4 57.1	2 28.6	1 14.3	-	-
	70歳以上	2 100.0	1 50.0	-	2 100.0	-	-	-	-
	年 収 別	100万円未満	29 100.0	20 69.0	14 48.3	10 34.5	8 27.6	2 6.9	2 6.9
300万円未満	19 100.0	9 47.4	13 68.4	3 15.8	2 10.5	3 15.8	-	-	
500万円未満	25 100.0	17 68.0	10 40.0	9 36.0	10 40.0	2 8.0	3 12.0	1 4.0	
800万円未満	24 100.0	14 58.3	8 33.3	14 58.3	8 33.3	4 16.7	2 8.3	-	
1000万円未満	6 100.0	1 16.7	2 33.3	4 66.7	1 16.7	1 16.7	1 16.7	1 16.7	
1000万円以上	9 100.0	3 33.3	4 44.4	6 66.7	2 22.2	1 11.1	-	-	
地 域 別	首都圏	89 100.0	48 53.9	36 40.4	38 42.7	24 27.0	11 12.4	7 7.9	3 3.4
	阪神圏	33 100.0	21 63.6	16 48.5	12 36.4	8 24.2	2 6.1	1 3.0	-

【インターネットによる取引意向のある金融商品(重複回答)】

／保有状況別ーインターネット取引意向者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

(上段:N)(下段:%)

	全 体	普通預貯金	定期預金 ・外貨預金	株式・国債 ・公債・社債 ・転換社債	損保・生保	投資信託	ETF ・不動産投信	その他	
全 体	122 100.0	69 56.6	52 42.6	50 41.0	32 26.2	13 10.7	8 6.6	3 2.5	
保 有 状 況 別	現在保有層	19 100.0	6 31.6	7 36.8	17 89.5	3 15.8	5 26.3	2 10.5	-
	保有経験層	6 100.0	2 33.3	2 33.3	5 83.3	-	-	-	1 16.7
	保有未経験 ・購入意向層	25 100.0	12 48.0	13 52.0	8 32.0	6 24.0	7 28.0	4 16.0	1 4.0
	非購入意向または 非認知層	72 100.0	49 68.1	30 41.7	20 27.8	23 31.9	1 1.4	2 2.8	1 1.4